

ES/1 NEO

CSシリーズ

CS-Utility
iim configuration assistant
使用者の手引き

第17版 2022年2月

©著作権所有者 株式会社 アイ・アイ・エム 2022年

© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2022

**ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.**

“RESTRICTED MATERIAL OF IIM “LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM

目次

第1章 はじめに	1
1.1. 対象プロダクト	2
1.2. 起動と終了	3
1.2.1. 起動方法	3
1.2.2. 終了方法	4
1.3. 転送設定一覧	5
1.3.1. 転送設定の選択	5
1.3.2. フィルタ	5
1.3.3. サマリ	5
1.3.4. アイコン	6
第2章 機能一覧	7
2.1. ファイル	7
2.1.1. バックアップ	7
2.1.2. リストア	10
2.1.3. 終了	10
2.2. 機能	11
2.2.1. 転送設定の追加	11
2.2.2. 転送設定の変更	16
2.2.3. 転送設定の削除	17
2.2.4. 転送設定のコピー	18
2.3. 環境	19
2.3.1. 環境設定 - オプション	19
2.3.2. 環境設定 - システム表示	20
2.3.3. プロダクト共通設定	21
2.3.4. メンテナンス	39
2.3.5. ツール - バッチファイルの作成	40
2.3.6. ツール - 鍵管理	41
2.3.7. ツール - 既存設定からの移行	44
第3章 設定項目	45
3.1. ファイル転送	45
3.1.1. 接続	45
3.1.2. 対象ファイル	48
3.1.3. FTP	49
3.1.4. SFTP	51
3.1.5. System i	52
3.1.6. SAP ERP	54
3.1.7. z/VM	56
3.2. データ変換	57
3.2.1. IBM DB2	57
3.2.2. System i 統計情報	59
3.2.3. SAP ERP	60
3.2.4. レコード抽出	62
3.2.5. HTTP アクセスログ	63

3.2.6.パケットモニタ	68
3.2.7.パケットモニタ(標準 1).....	70
3.2.8.パケットモニタ(標準 2).....	73
3.2.9.パケットモニタ(拡張)	75
3.2.10.任意データ(全般)	76
3.2.11.任意データ(テーブル).....	81
3.2.12.Zabbix ※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。.....	83

第1章 はじめに

このマニュアルでは、ES/1 NEO CS シリーズの各製品オプションを実行するために必要な「対象データの転送 – 変換プログラムへの入力設定 – 中間ファイルの出力」までの一連の設定を行う「iim configuration assistant」の使用方法を説明します。

メモ！

iim configuration assistant を利用せずに、V05L01R1 以前の各製品オプションが持っていた configuration assistant プログラムで作成した設定をそのまま継続して使用することも可能です。
iim configuration assistant にて V05L01R1 以前の転送／変換設定を編集する場合は、iim configuration assistant の移行機能を使用して、既存の設定を新形式に移行する必要があります。

1.1. 対象プロダクト

iim configuration assistant は、ファイル転送とデータ変換の設定を行います。対象となるプロダクト、およびファイルは以下の通りです。

●対象プロダクト

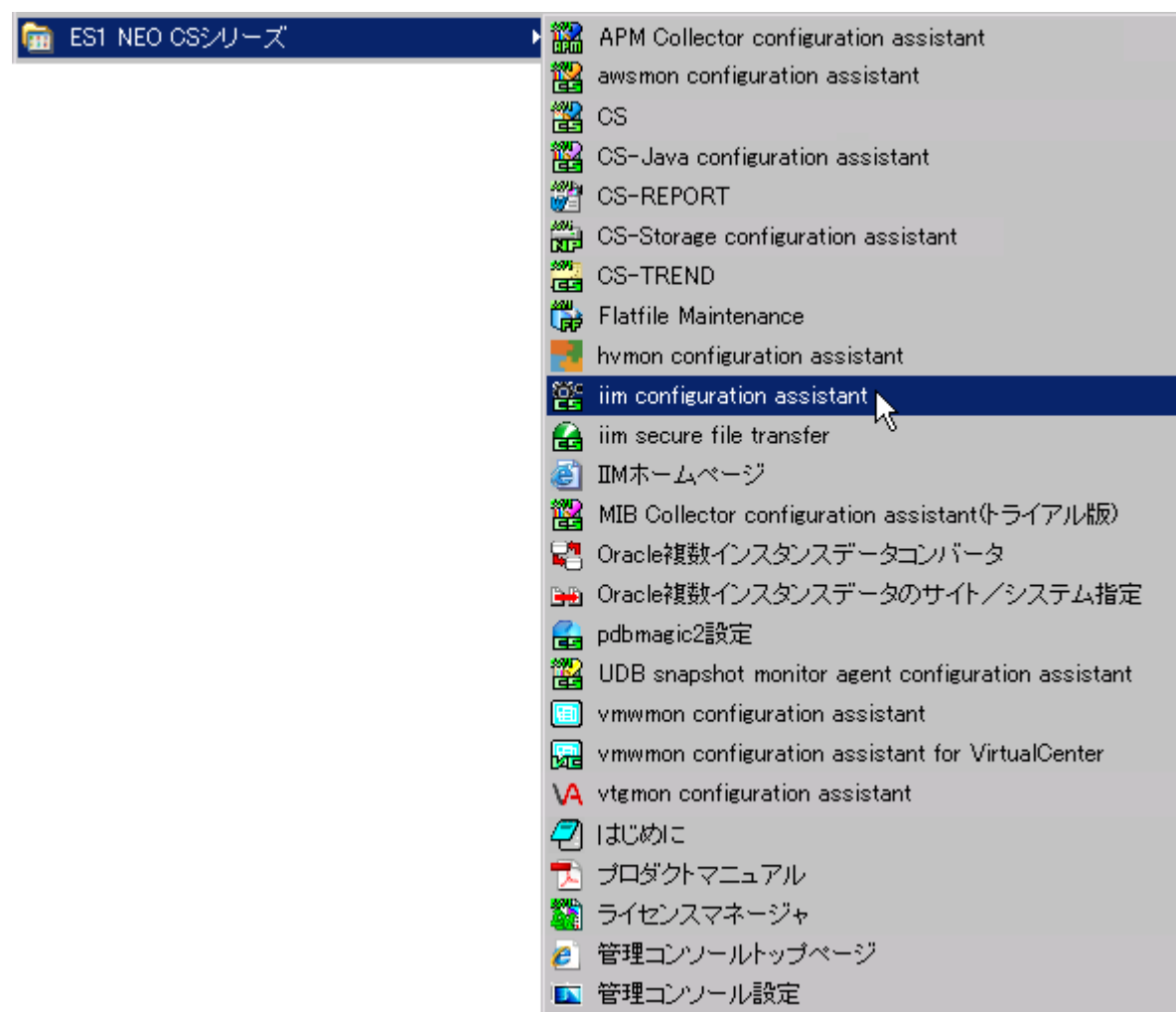
プロダクト／プログラム	ファイル
CS-Utility ・iim collect	・任意の転送設定ファイル（複数）。 標準では「<CS 導入フォルダ>%iimcllct%iimcllct.conf」
CS-DB2 ・udbmagic	・「<CS 導入フォルダ>%udbmagic%udbmagic.ini」
CS-i5 ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%i5conv」
CS-MySQL ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%mysqlconv」
MF-z/VM ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%zvmconv」
CS-KVM ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%kvmconv」
CS-SAP ERP ・SAP magic	・「<CS 導入フォルダ>%r3mgx%r3mgx.ini」ファイル
CS-WEB Option HTTP Log Processor ・log2f	・「<CS 導入フォルダ>%log2f%log2f.ini」 ・「<CS 導入フォルダ>%log2f%log2f.conf」
CS-Network Packet Monitor ・wmonpost	・「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%wmonpost.ini」 ・「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%wmonflt.txt」 ・「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%sysparam」 ・「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%extparam」
CS-CONNECT ・etcmgx	・「<CS 導入フォルダ>%etcmgx%cnvrules%etcmgx.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%etcmgx%_extrules%ruleorats0.txt」 ・「<CS 導入フォルダ>%etcmgx%cnvrules」フォルダの 「rule9999.txt（9999 は 1～32 文字の数字）」ファイル（複数）
CS-RMON ※	・「<CS 導入フォルダ>%rmonmgx%zabbix.cfg」
APM Interface -- Dynatrace ※ ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%dtamconv」
CS-Oracle AWR ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%awrconv」
CS-JOB for JP1 ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>%x2f%ajscconv」

※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。

1.2. 起動と終了

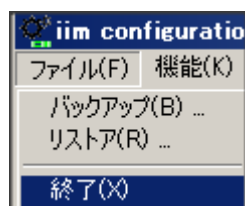
1.2.1. 起動方法

「スタート→プログラム→ES1 NEO CS シリーズ」から「iim configuration assistant」を選択します。



1.2.2. 終了方法

メインメニューから「ファイル(F)→終了(X)」を選択します。



1.3. 転送設定一覧

1.3.1. 転送設定の選択

追加した転送設定は、メイン画面のツリーとテーブルに表示されます。

転送設定を変更、削除、コピーする場合、あるいは設定内容を確認する場合は、ツリー、またはテーブルから転送設定を選択します。

	フィルタ(E)				
	サイト	システム	設定名	データソース	更新日
	FT IIM	名古屋	新しい設定	ファイル転送のみ	2017/03/30
	FT IIM	大阪	新しい設定	ファイル転送のみ	2017/03/30
	FT IIM	東京	新しい設定	ファイル転送のみ	2017/03/30

1.3.2. フィルタ

転送設定テーブルの「フィルタ」では、絞り込み検索が行えます。

フィルタ(E)	
ス	更新日

検索対象となるのは、テーブル各列に表示される値です。

検索条件となる文字列を入力し、[Enter]キーを押下すると、いずれかの設定値に部分一致した転送設定を表示します。

例えば、2017 年に設定を更新したという条件で検索するには、フィルタに「2017/」を入力します。

検索結果は、新たな条件で検索するか、プログラムを終了するまで有効です。設定名でフィルタした後に設定名を変更した場合などで、検索条件にマッチしなくなると一覧には表示されません。

すべての転送設定を表示するには、フィルタを空にした状態で[Enter]キーを押下してください。

尚、AND 検索や OR 検索、詳細情報によるマッチングはサポートしておりません。

1.3.3. サマリ

転送設定を選択すると、すべての設定の設定値がテキスト形式で表示されます。

1	サイト	IIM
2	システム	東京
3	設定名	新しい設定
4	データソース	ファイル転送のみ
5	ファイル転送	有効
6	*設定ファイル	C:\IIM\CS\iimclt\iimclt.conf
7	変換プログラム	なし
8	*設定ファイル	なし
9	更新日時	2018/01/11 09:59
10	=====	
11	ファイル転送	
12	=====	
13	ファイル転送を行う	有効
14	プロトコル	FTP
15	IP	127.0.0.1
16	ユーザ	
17	リモートパス	/home/iim/etcout
18	作業ディレクトリ	作業ディレクトリを変更する
19	ローカルパス	C:\IIM\WORK\CS\etcOUT\IIM\東京
20	転送モード	バイナリ
21	タイムアウト	10000000 ミクロ秒
22	ファイルカード	*
23	差分モード	無効
24	[FTP] セッションポート番号	21
25	[FTP] データポート番号	20
26	[FTP] 接続方法	アクティブ
27	[FTP] IPアドレスが異なる場合のファイル転送を許可する	無効
28	=====	
29	データ変換	
30	=====	
31	なし	
32	=====	
33		

この画面から設定値の変更は行えませんが、コピーは可能です。

また、ローカルファイルはハイパーリンクとして扱います。対象ファイルが存在する場合は notepad で対象を表示します。フォルダの場合は、explorer を起動します。

1.3.4. アイコン

ツリーとテーブルに、データソースに応じたアイコンを表示します。

ファイル転送が有効（一時的にファイル転送を無効と設定した場合も含む）の場合は、アイコンに下線が付きます。

FT iim	東京	新しい設定	ファイル転送のみ	2017/03/30
--------	----	-------	----------	------------

メモ！

アイコンは視覚的補助のために用意されており、プロダクトのアイコンとは異なります。

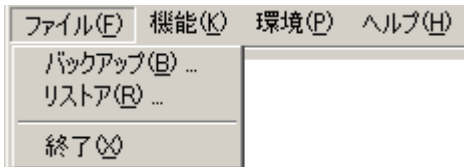
データソースを確認するには、アイコンではなく「データソース」列を参照してください。

第2章 機能一覧

機能の一覧です。操作ヘルプとしてご覧ください。

2.1. ファイル

「ファイル(F)」メニューの機能です。



2.1.1. バックアップ

現在の転送設定をバックアップ保存します。バックアップの対象となるファイルは以下の通りです。

(1) 転送設定で指定したファイル。

iim configuration assistant で転送設定を追加する際に指定するファイルです。V05L01R1 以前の設定ファイルを転送設定に追加する場合は「2.3.7. ツール – 既存設定からの移行」を参照してください。

(2) 必ずバックアップされるファイル

以下のファイルは転送設定に関わらず、バックアップの対象となります。

● バックアップ対象ファイル

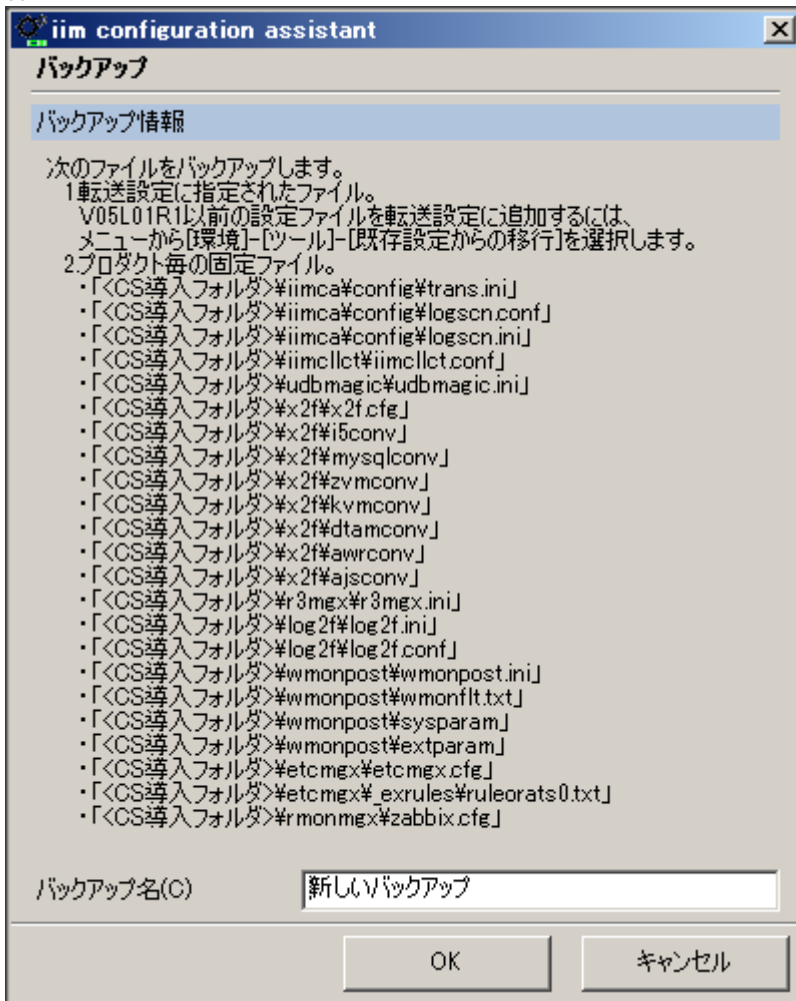
プロダクト／プログラム	ファイル
CS-Utility ・iim configuration assistant	・「<CS 導入フォルダ>¥iimca¥config¥trans.ini」 ・「<CS 導入フォルダ>¥iimca¥config¥logscn.conf」 ・「<CS 導入フォルダ>¥iimca¥config¥logscn.ini」
CS-Utility ・iim collect	・「<CS 導入フォルダ>¥iimcllct¥ iimcllct.conf」 「iimcllct.conf」以外の、既存の iim collect 用設定ファイル (xxxxx.conf : 複数) をバックアップ対象とするには「既存設定からの移行」 が必要です。
CS-DB2 ・udbmagic	・「<CS 導入フォルダ>¥udbmagic¥udbmagic.ini」
CS-i5 ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥i5conv」 「i5conv」以外の、既存の x2f 用設定ファイル (複数) をバックアップ対象と するには「既存設定からの移行」が必要です。
CS-MySQL ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥mysqlconv」
MF-z/VM ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥zvmconv」
CS-KVM ・x2f	・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥x2f.cfg」 ・「<CS 導入フォルダ>¥x2f¥kvmconv」
CS-SAP ERP ・SAP magic	・「<CS 導入フォルダ>¥r3mgx¥r3mgx.ini」
CS-WEB Option HTTP Log Processor ・log2f	・「<CS 導入フォルダ>¥log2f¥log2f.ini」 ・「<CS 導入フォルダ>¥log2f¥log2f.conf」


●バックアップ対象ファイル

プロダクト	ファイル
CS-Network Packet Monitor ・wmonpost	<ul style="list-style-type: none"> 「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%wmonpost.ini」 「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%wmonflt.txt」 「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%sysparam」 「<CS 導入フォルダ>%wmonpost%extparam」
CS-CONNECT ・etcmgx ・Oracle テーブルスペース情報の取込	<ul style="list-style-type: none"> 「<CS 導入フォルダ>%etcmgx%etcmgx.cfg」 「<CS 導入フォルダ>%etcmgx%_exrules%ruleorats0.txt」 既存の「rule9999.txt（9999 は 1～32 文字の数字）」ファイル（複数）をバックアップ対象とするには「既存設定からの移行」が必要です。
CS-RMON ※	「<CS 導入フォルダ>%rmonmgx%zabbix.cfg」
APM Interface - Dynatrace ※ ・x2f	<ul style="list-style-type: none"> 「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 「<CS 導入フォルダ>%x2f%dtamconv」
CS-Oracle AWR ・x2f	<ul style="list-style-type: none"> 「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 「<CS 導入フォルダ>%x2f%awrconv」
CS-JOB for JP1 ・x2f	<ul style="list-style-type: none"> 「<CS 導入フォルダ>%x2f%x2f.cfg」 「<CS 導入フォルダ>%x2f%ajscnv」

※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。

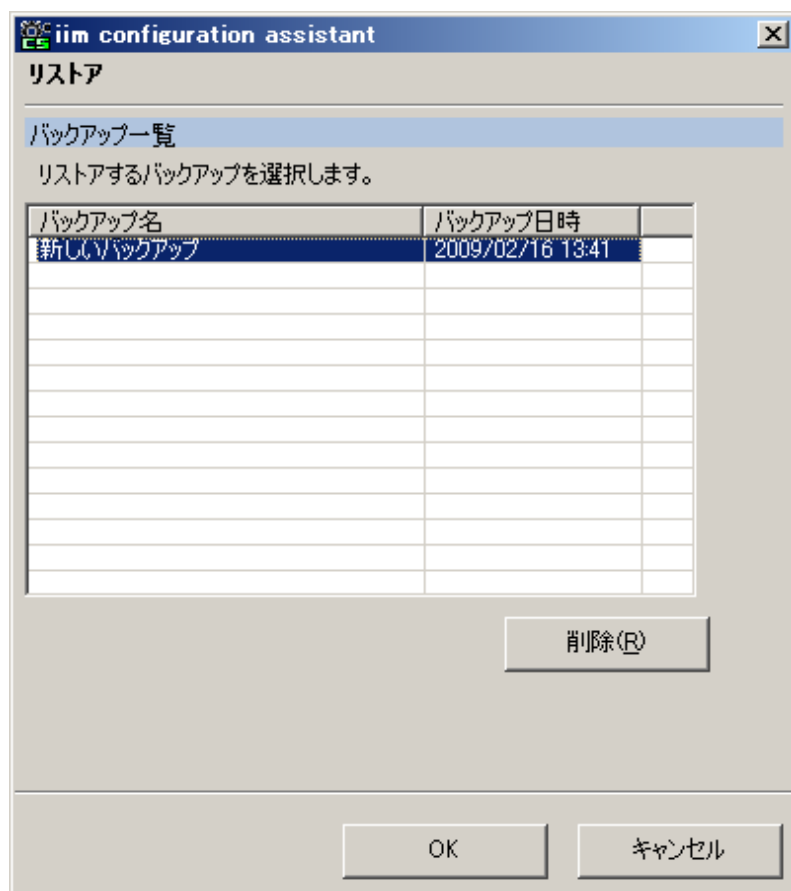
バックアップは「<CS 導入フォルダ>%iimca%save%backup」フォルダの「YYYYMMDD hhmm バックアップ名」フォルダに保存されます。



項目	説明
バックアップ名(C)	バックアップの名前を入力します。
[OK]ボタン	<p>実際にバックアップするファイルの一覧を表示します。[はい(Y)]を選択すると、現在の設定をバックアップ保存します。</p> 
[キャンセル]ボタン	この画面を閉じます。

2.1.2. リストア

「バックアップ」により作成されたバックアップから転送設定を復元します。



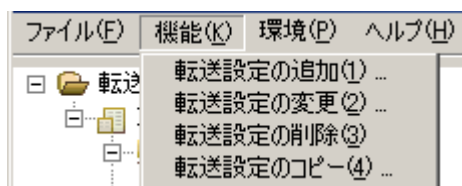
項目	説明
バックアップ名	バックアップの名前です。
バックアップ日時	「バックアップ」時の日時（YYYY/MM/DD hh:mm 形式）です。
[削除(R)]ボタン	選択したバックアップを削除します。
[OK]ボタン	選択したバックアップから転送設定を復元します。
[キャンセル]ボタン	この画面を閉じます。

2.1.3. 終了

アプリケーションを終了します。

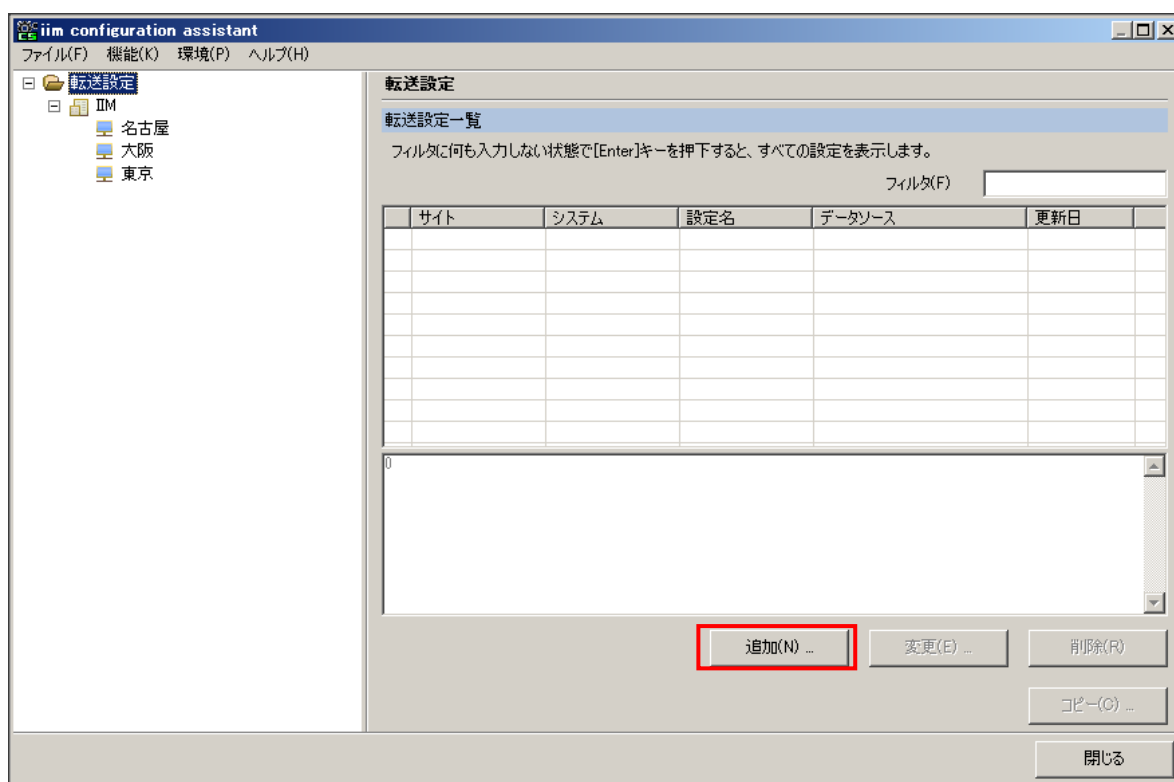
2.2. 機能

「機能(K)」メニューの機能です。

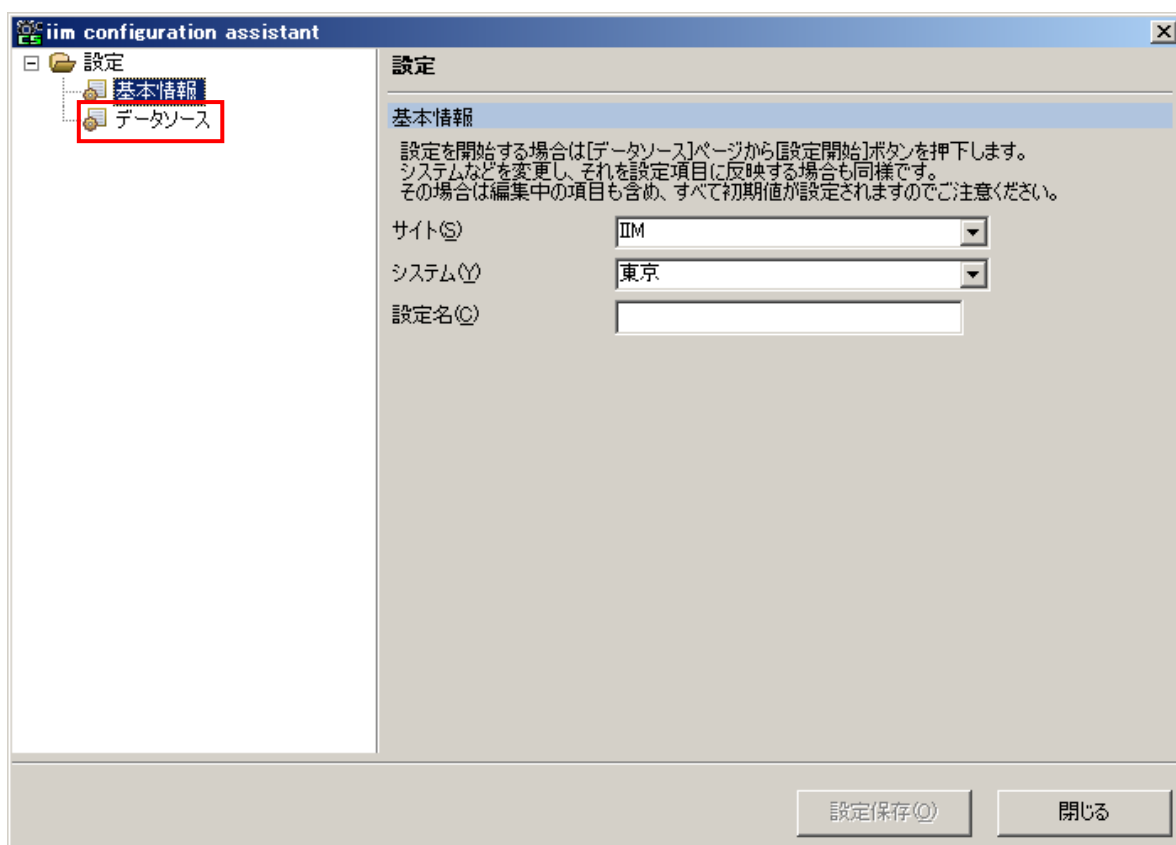


2.2.1. 転送設定の追加

(1) 転送設定を追加します。メイン画面から行う場合は[追加(N)...]ボタンを押下します。



(2)「基本情報」画面で設定を行い、ツリーから「データソース」を選択します。



項目	説明
サイト(S)	サイトを入力します。
システム(Y)	システムを入力します。
設定名(C)	設定名を入力します。

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

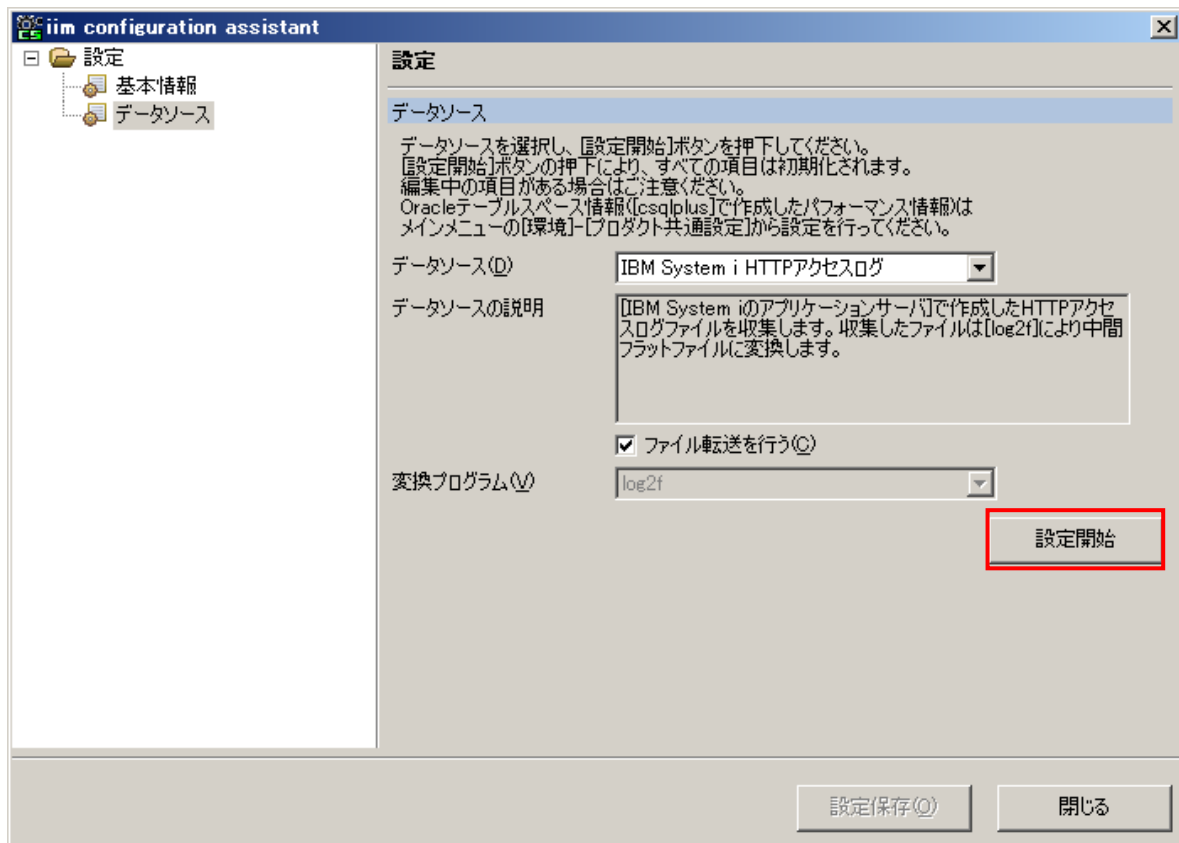
サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

(3)「データソース」画面で設定を行い、[設定開始]ボタンを押下します。



項目	説明
データソース(D)	<p>ファイル転送、およびデータ変換する対象データの種別を選択します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ファイル転送のみ ファイル転送のみ(IBM System i 統計情報) ファイル転送のみ(SAP ERP) IBM DB2 IBM System i 統計情報 IBM System i HTTPアクセスログ SAP ERP IIM HTTPアクセスログ IIM パケットモニタ IIM パケットモニタ(拡張) IIM 任意データ MySQL 統計情報 z/VM 統計情報 Oracle テーブルスペース情報 Zabbix データ KVM 統計情報 Dynatrace 統計情報 Oracle AWR 統計情報 JPI/AJS ログ</p> </div> <p>選択すると「データソースの説明」にどのようなファイルを対象とするか説明文が表示され、「変換プログラム(V)」に使用する変換プログラム名が表示されます。</p> <p>「ファイル転送のみ(IBM System i 統計情報)」と「ファイル転送のみ(SAP ERP)」は、既存設定との互換性を保持するためのものです。これらのデータソースは移行専用であるため、新規に選択することはできません。</p>
ファイル転送を行う(C)	iim collect を使用するか指定します。データ変換のみを行う場合はチェックを外してください。

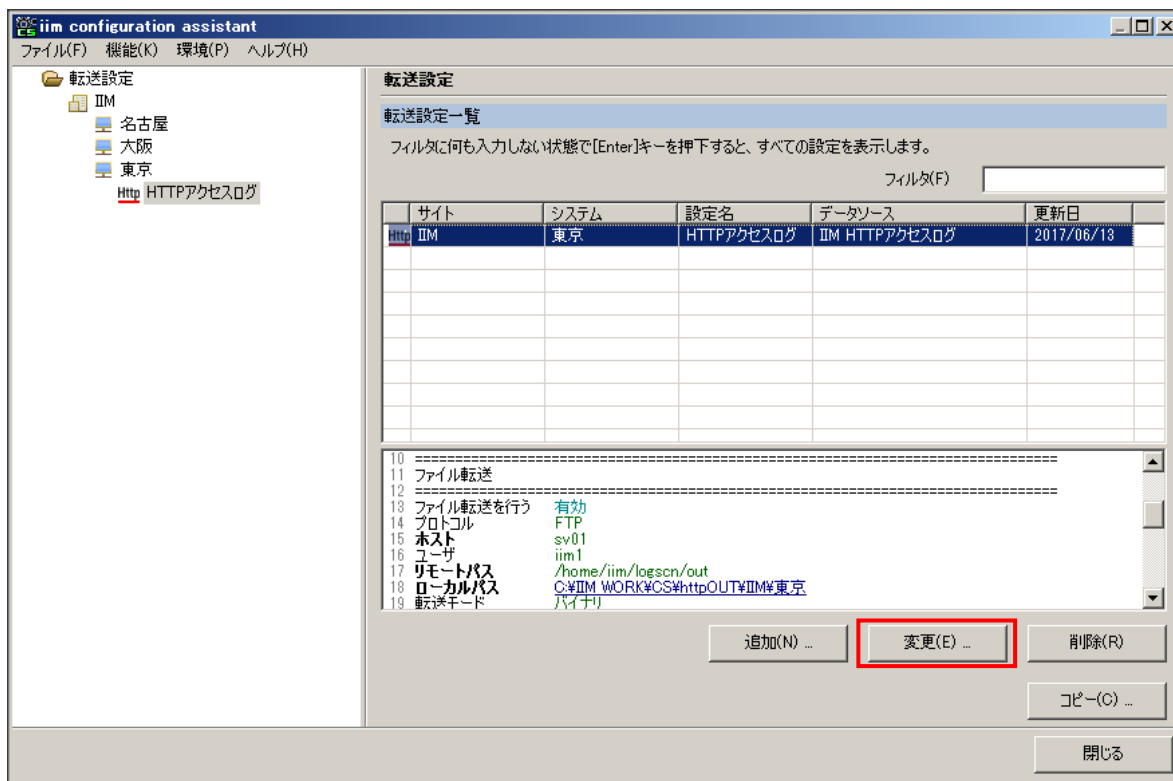
項目	説明
設定開始	<p>選択したデータソースで設定を開始します。 データソースにより、設定すべき項目がツリーに表示されます。</p> <p>(例) ファイル転送のみ</p>  <p>(例) IIM HTTP アクセスログ</p> 

(4) ツリーから項目を選択し、設定を行います。[設定保存(Q)]ボタンを押下すると転送設定の追加は完了です。各設定項目の詳細は「第 3 章 設定項目」を参照してください。

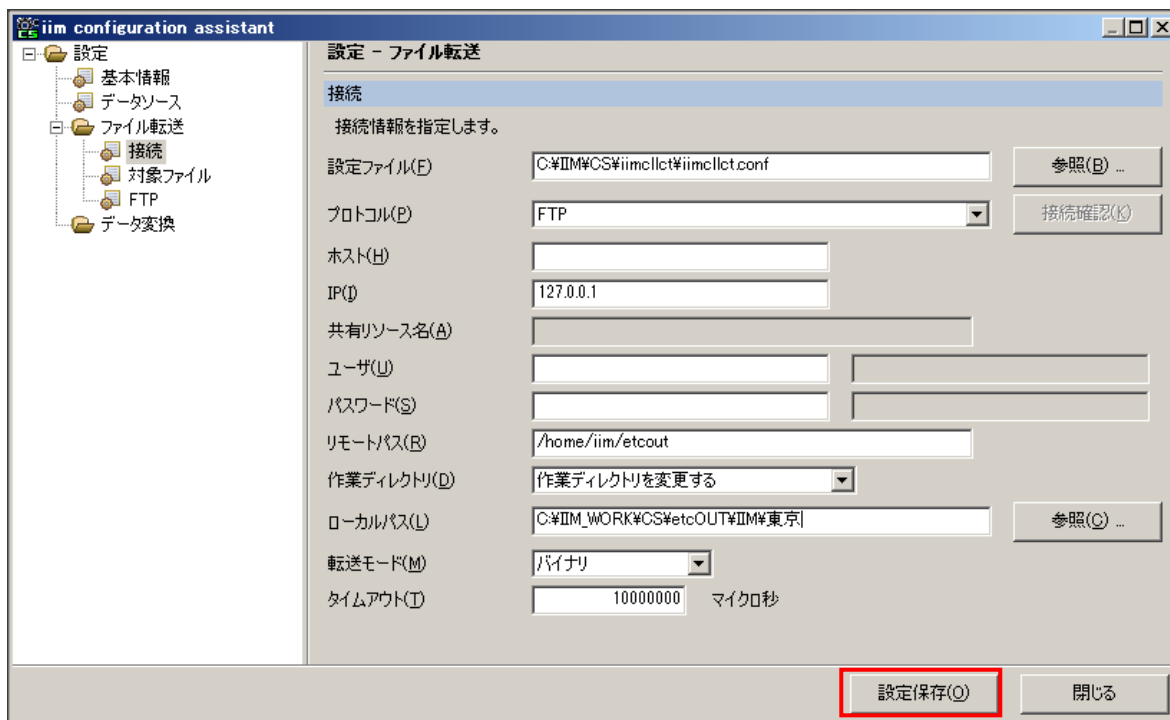


2.2.2. 転送設定の変更

(1) 転送設定を変更します。メイン画面から行う場合は[変更(E)...]ボタンを押下します。

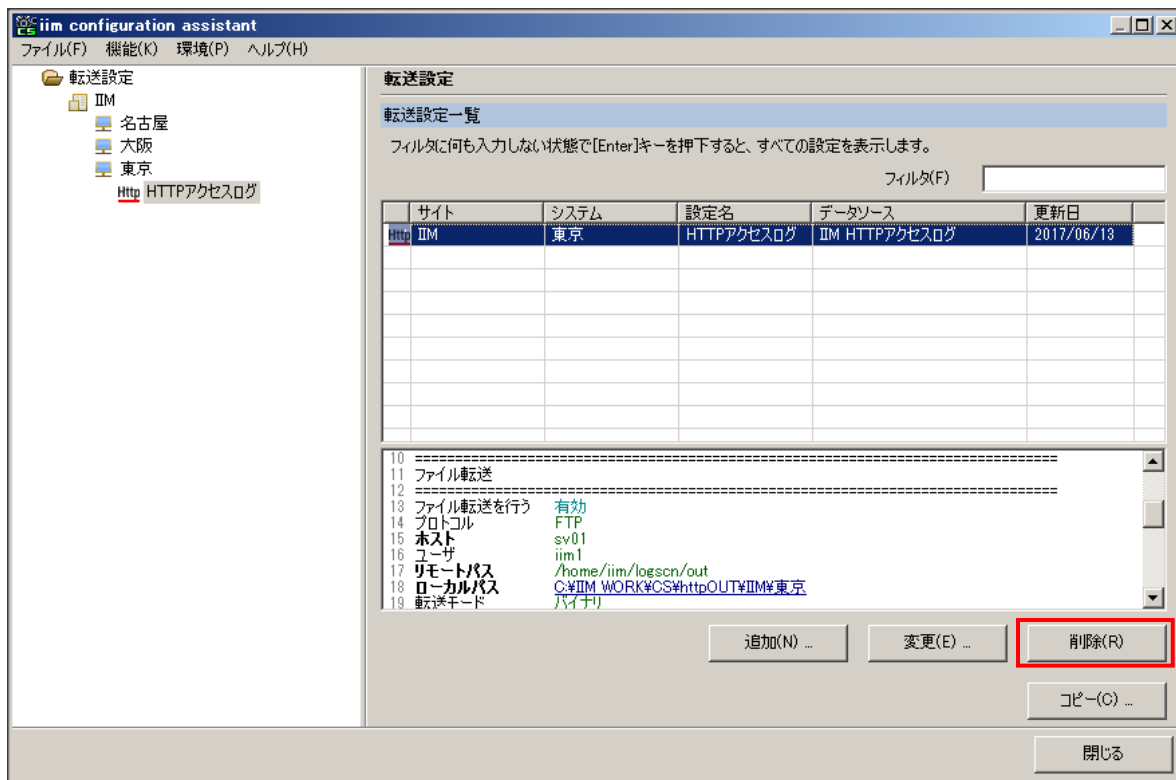


(2) [設定保存(Q)]ボタンを押下すると転送設定の変更は完了です。

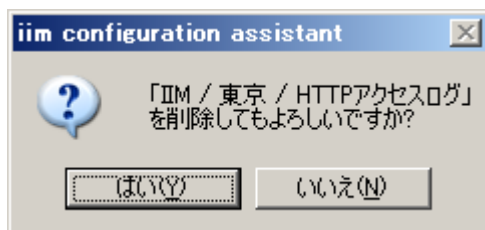


2.2.3. 転送設定の削除

(1) 転送設定を削除します。メイン画面から行う場合は[削除(R)]ボタンを押下します。

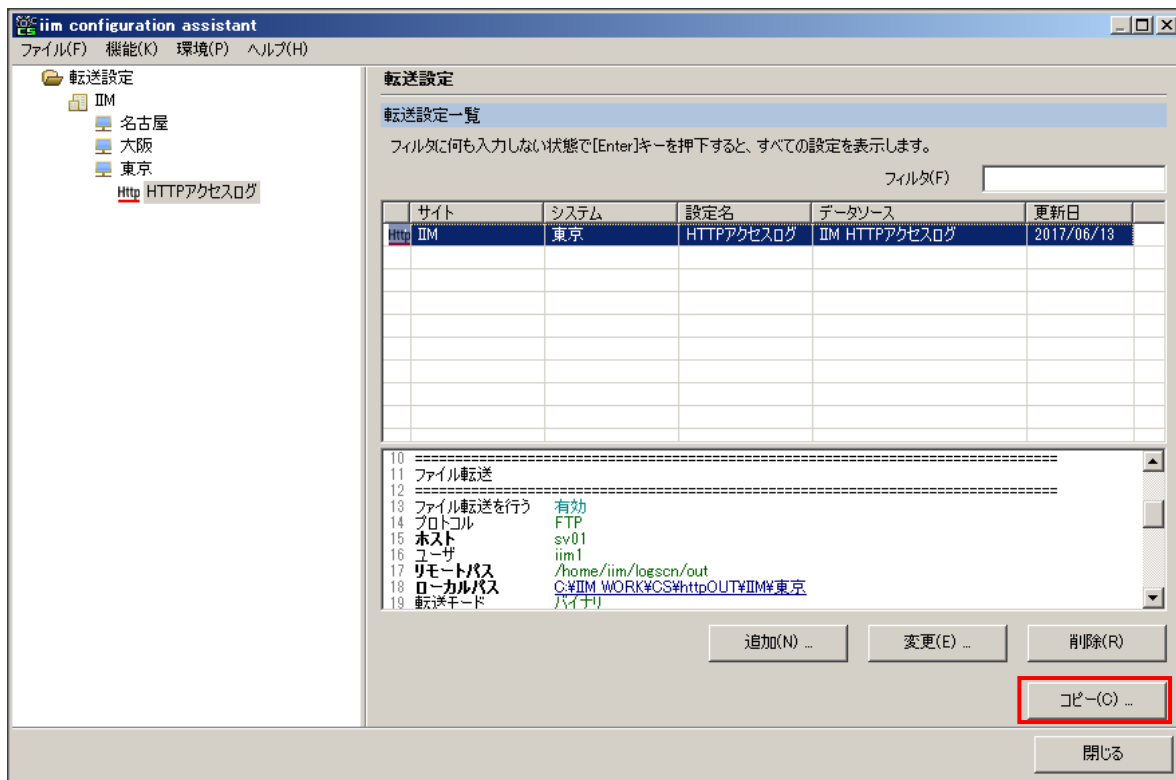


(2) [はい(Y)]ボタンを押下すると転送設定の削除は完了です。

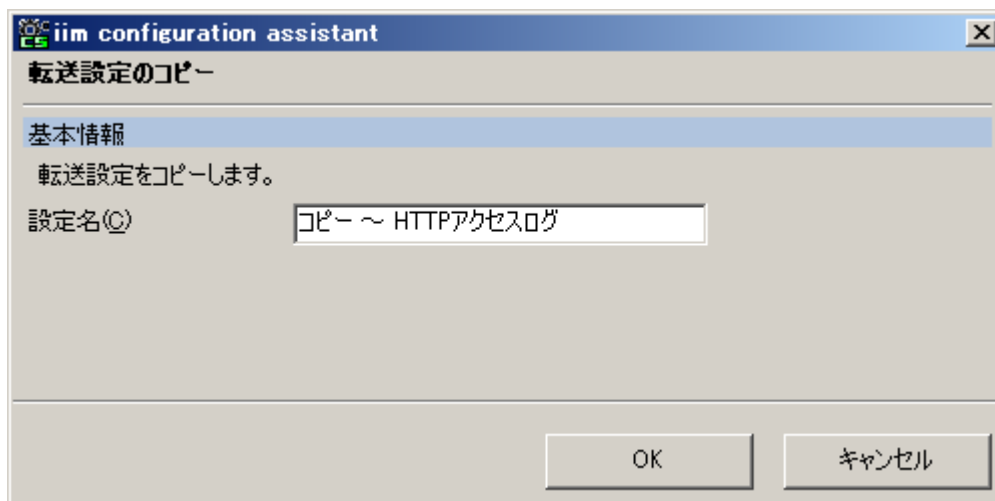


2.2.4. 転送設定のコピー

(1) 転送設定をコピーします。メイン画面から行う場合は[コピー(C)...]ボタンを押下します。



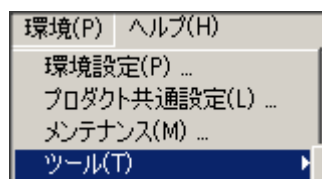
(2) [OK]ボタンを押下すると転送設定のコピーは完了です。



項目	説明
設定名(C)	コピー先の設定名を入力します。

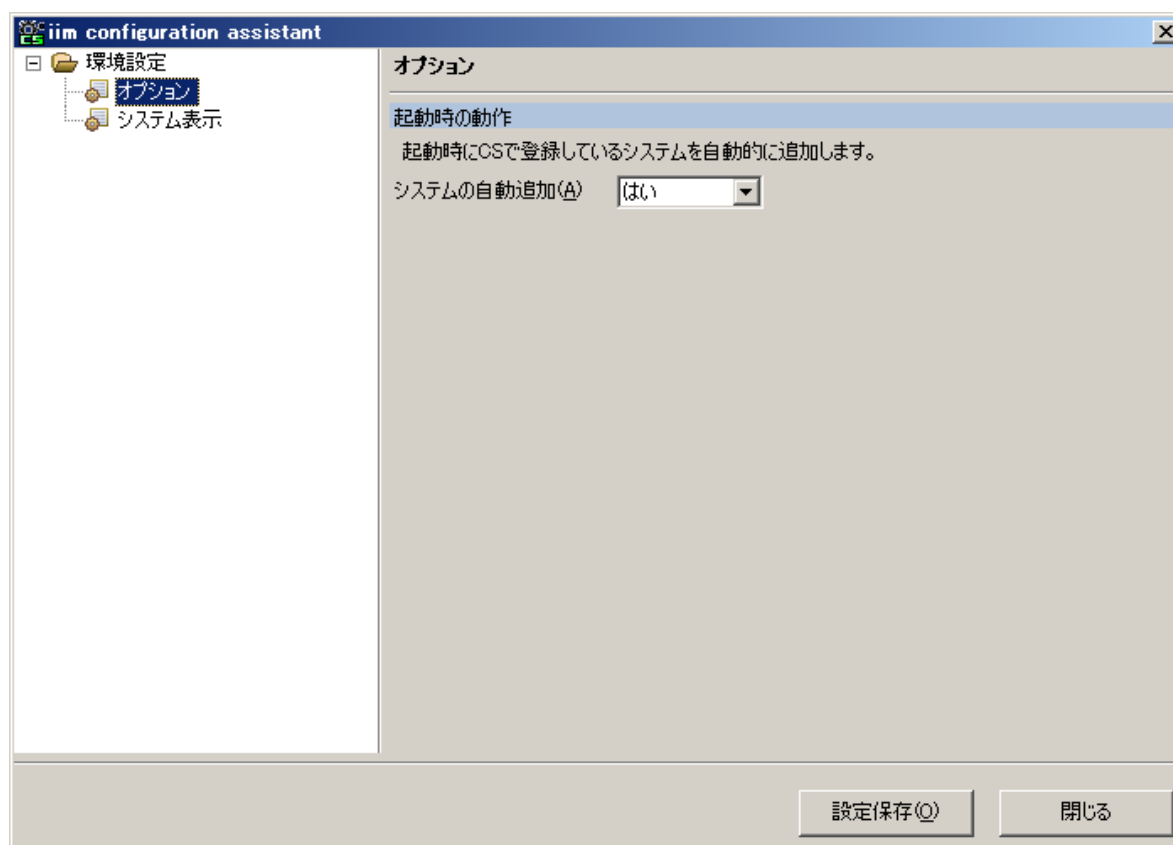
2.3. 環境

「環境(P)」メニューの機能です。



2.3.1. 環境設定 – オプション

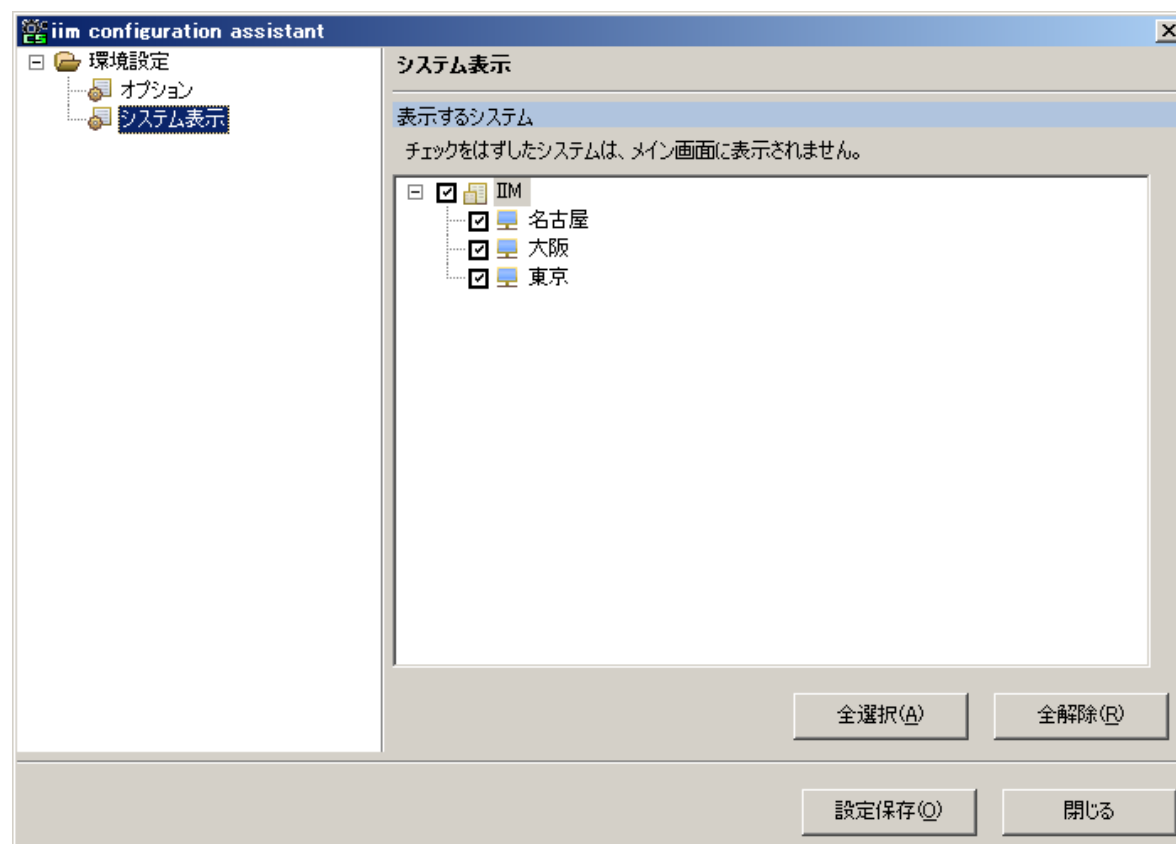
アプリケーションの環境設定を行います。



項目	説明
システムの自動追加(A)	アプリケーション起動時に CS で登録しているシステムを自動的に追加します。
[設定保存(O)]ボタン	現在の設定を保存します。
[閉じる]ボタン	この画面を閉じます。

2.3.2. 環境設定 – システム表示

アプリケーションの環境設定を行います。



項目	説明
表示するシステム	転送設定の無いサイト／システムをメイン画面に表示するかどうかを設定します。 転送設定の無いシステムがチェック付きのツリーで表示されますので、メイン画面上で非表示にしたいシステムのチェックを外します。デフォルトでは、すべてのシステムがチェックされています。
[全選択(A)]ボタン	すべてのサイト／システムを選択します。
[全解除(R)]ボタン	すべてのサイト／システムを未選択状態にします。

2.3.3. プロダクト共通設定

各プロダクトの共通設定を行います。

(1) ファイル転送

iim collect (IIMCLLCT.INI) の設定を行います。

The screenshot shows the 'iim configuration assistant' window. The left sidebar lists various product categories, with 'File Transfer' (ファイル転送) selected. The main pane displays the 'File Transfer' configuration page. It includes a section for 'SSH2 Thread Pool' with a slider for 'Thread Pool Upper Limit (T)' set to 0 and a 'Timeout (M)' of 300 seconds. Below this is the 'SSH2 Authentication' section with input fields for 'User (U)', 'Password (P)', 'Key Pair (K)', and 'Passphrase (S)'. The 'ssh2.exe' section shows the path 'C:\openssh\ssh.exe' and a 'Reference (B) ...' button. At the bottom of the window are '設定保存(O)' (Save Settings) and '閉じる' (Close) buttons.

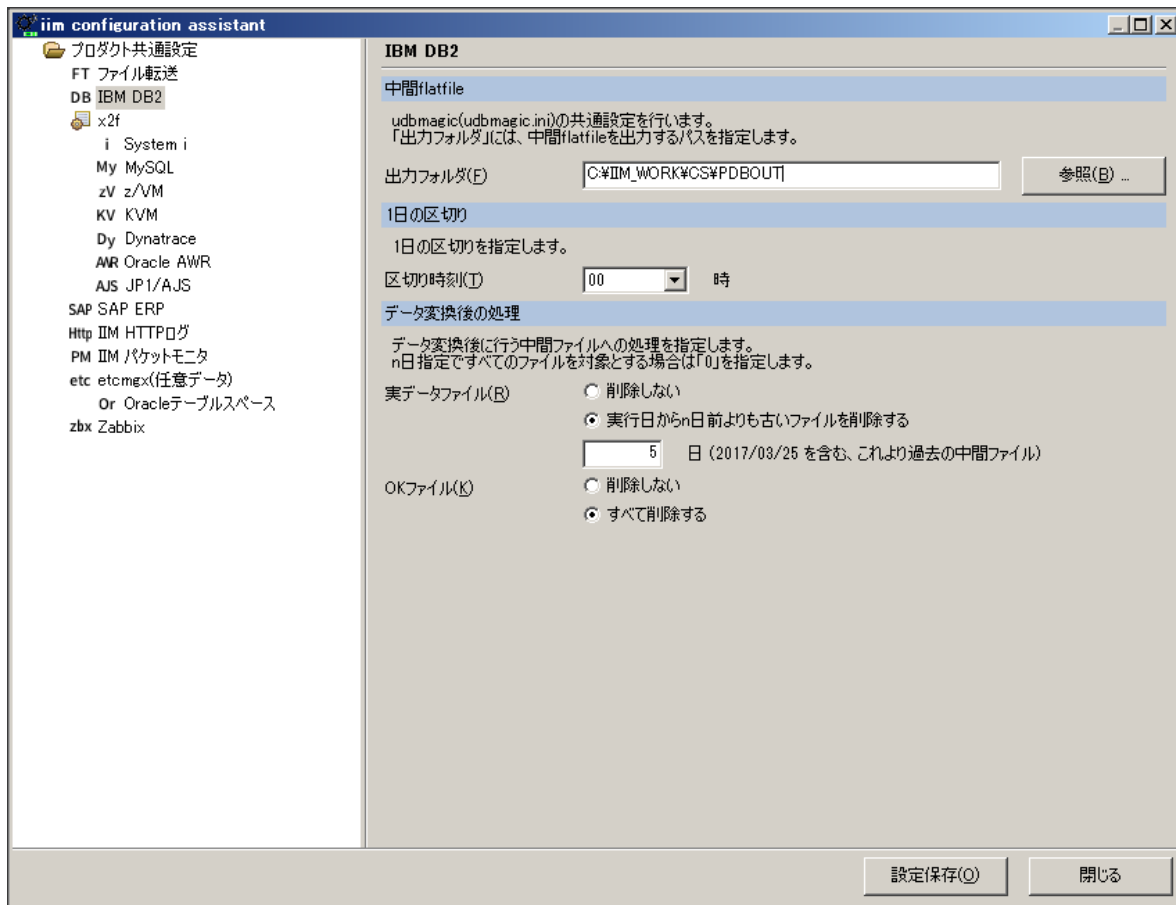
項目	説明
スレッドプールの上限(T)	同時実行するスレッド数の上限を指定します。デフォルトは「0(CPU コア数)」です。 通常、iSeries、z/VM 以外のファイル転送はマルチスレッドで実行します。対象サーバの同時接続数の上限やネットワーク流量を考慮して設定してください。
タイムアウト(M)	最後に実行したスレッドの待機時間を秒単位で指定します。デフォルトは「600」です。
ユーザ(U)	転送設定にユーザが指定されていない場合、この情報で認証します。 複数のサーバに対して同じ認証情報が適用できる環境では設定を推奨します。
パスワード(P)	転送設定にパスワードが指定されていない場合、この情報で認証します。
鍵ペア(K)	転送設定に鍵ペアが指定されていない場合、この情報で認証します。 鍵ペアの作成方法は「2.3.6. ツールー 鍵管理」を参照してください。
パスフレーズ(S)	転送設定に鍵ペアとパスフレーズが指定されていない場合、この情報で認証します。
ssh2.exe のパス(F)	使用する「ssh.exe」、または「ssh2.exe」コマンドを指定します。 通常は使用しません。
[設定保存(O)]ボタン	現在の設定を保存します。
[閉じる]ボタン	この画面を閉じます。

メモ！

転送設定毎に、SSH2 プロトコルの認証情報（ユーザ、パスワード、鍵ペア、パスフレーズ）を指定することも可能です。

(2)IBM DB2

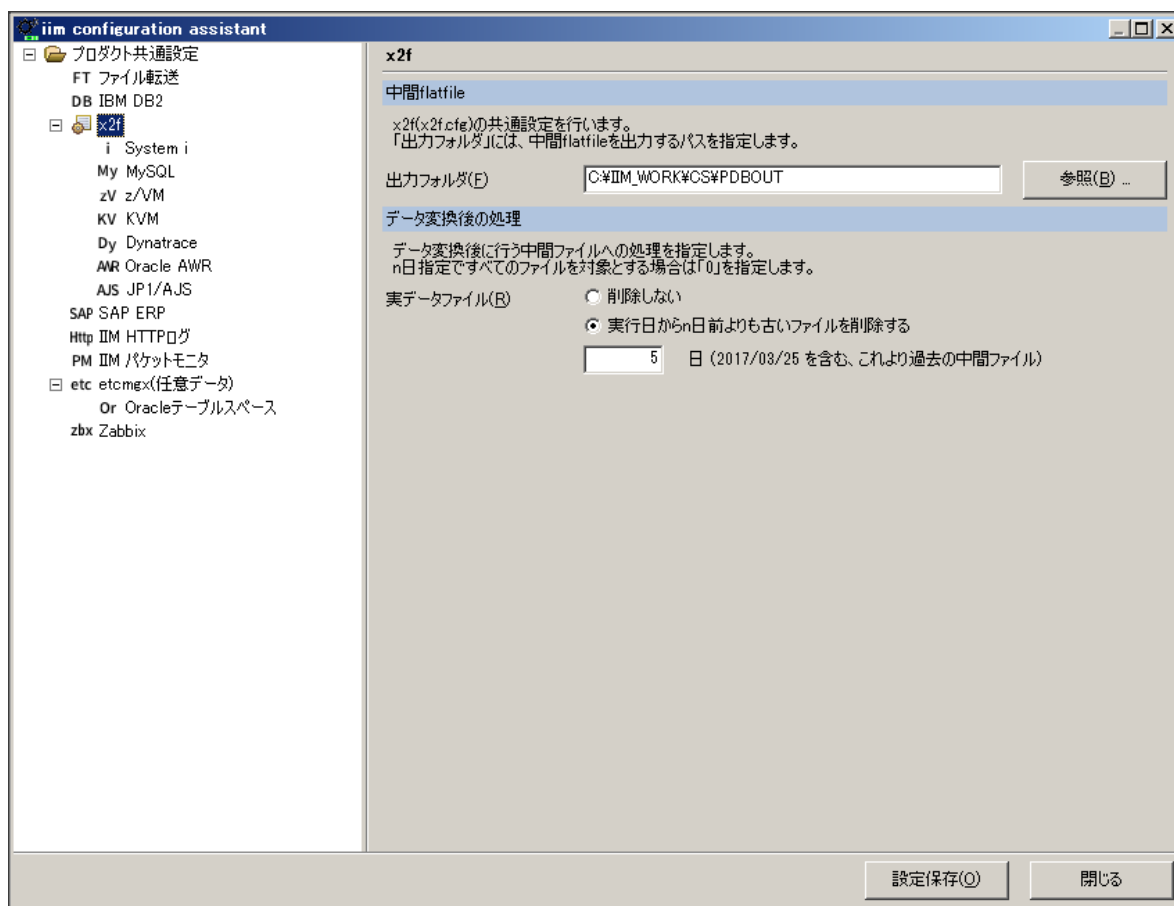
CS-DB2 udbmagic (udbmagic.ini) の設定を行います。



項目	説明
出力フォルダ(F)	中間 flatfile を出力するパスを指定します。
区切り時刻(T)	1 日の区切りを指定します。
実データファイル(R)	データ変換後に中間ファイル（実データファイル）の削除を行うか指定します。
OK ファイル(K)	データ変換後に中間ファイル（OK ファイル）の削除を行うか指定します。

(3)x2f

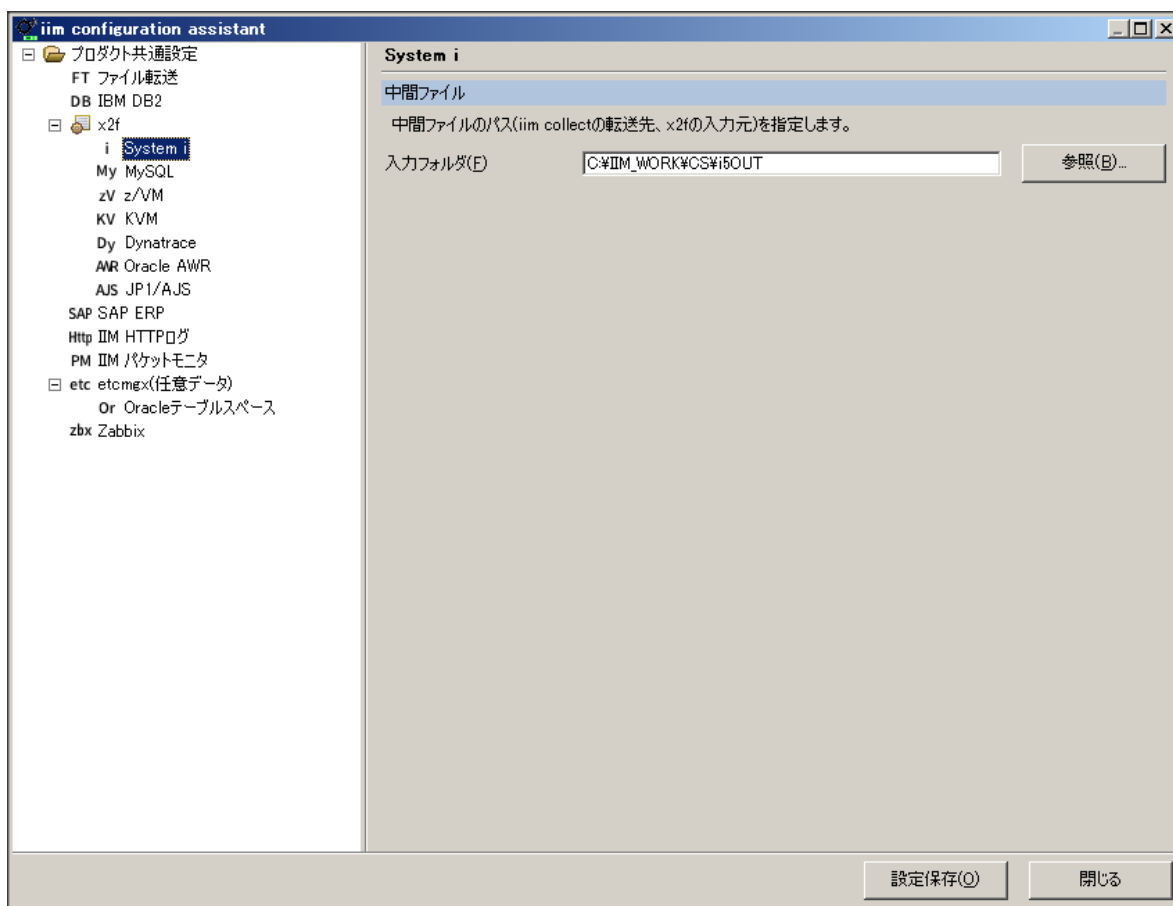
x2f (x2f.cfg) の設定を行います。



項目	説明
出力フォルダ(F)	中間 flatfile を出力するパスを指定します。
実データファイル(R)	データ変換後に中間ファイル（実データファイル）の削除を行うか指定します。

(4)System i

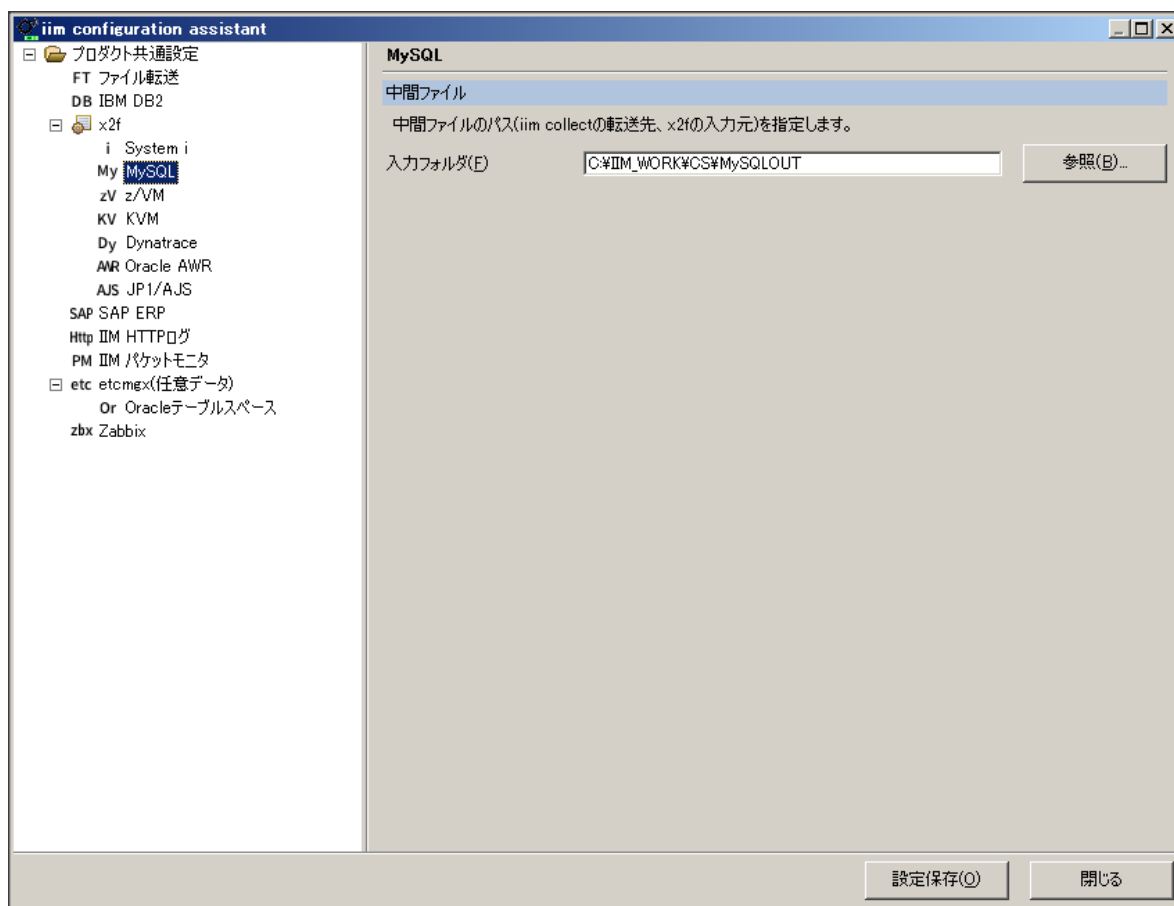
System i (i5conv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(E)	IBM System i の中間ファイルのパスを設定します。

(5)MySQL

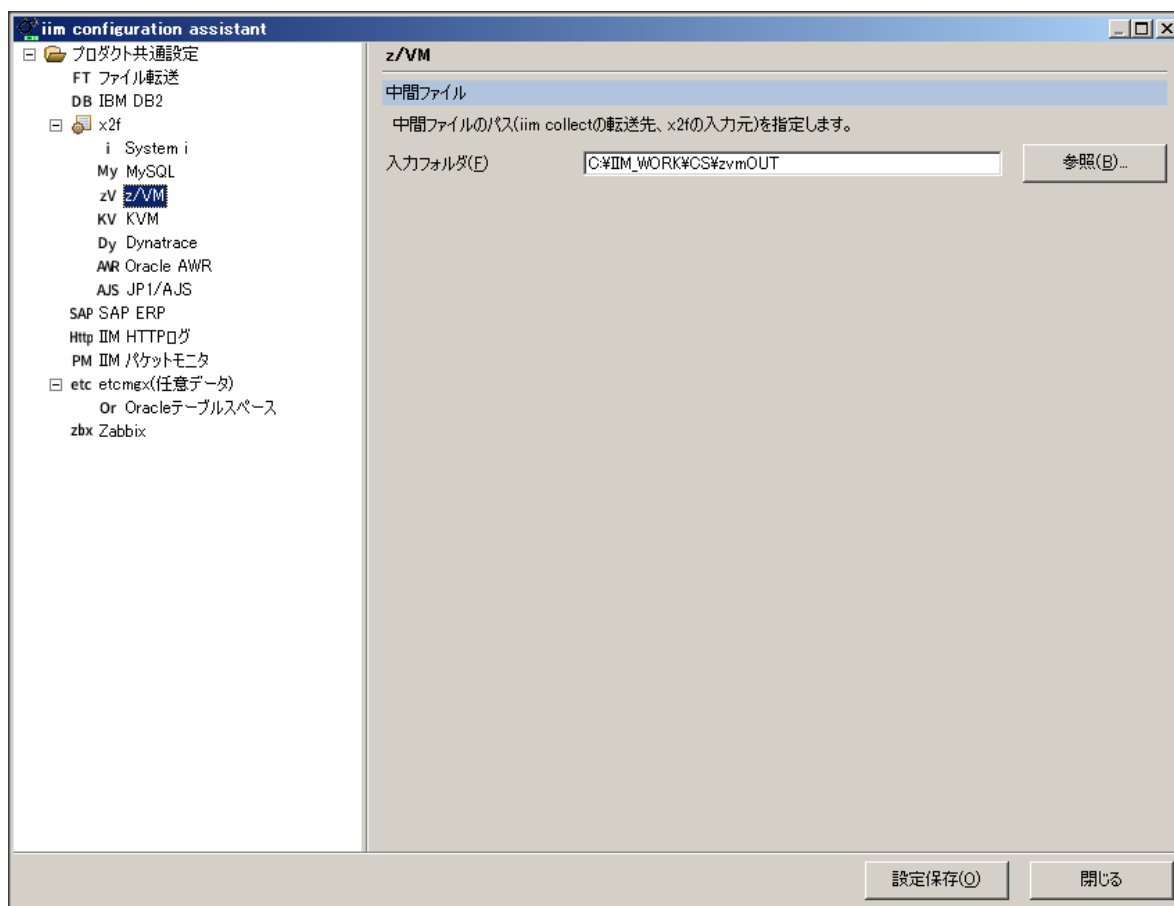
MySQL (mysqlconv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(F)	MySQL の中間ファイルのパスを設定します。

(6)z/VM

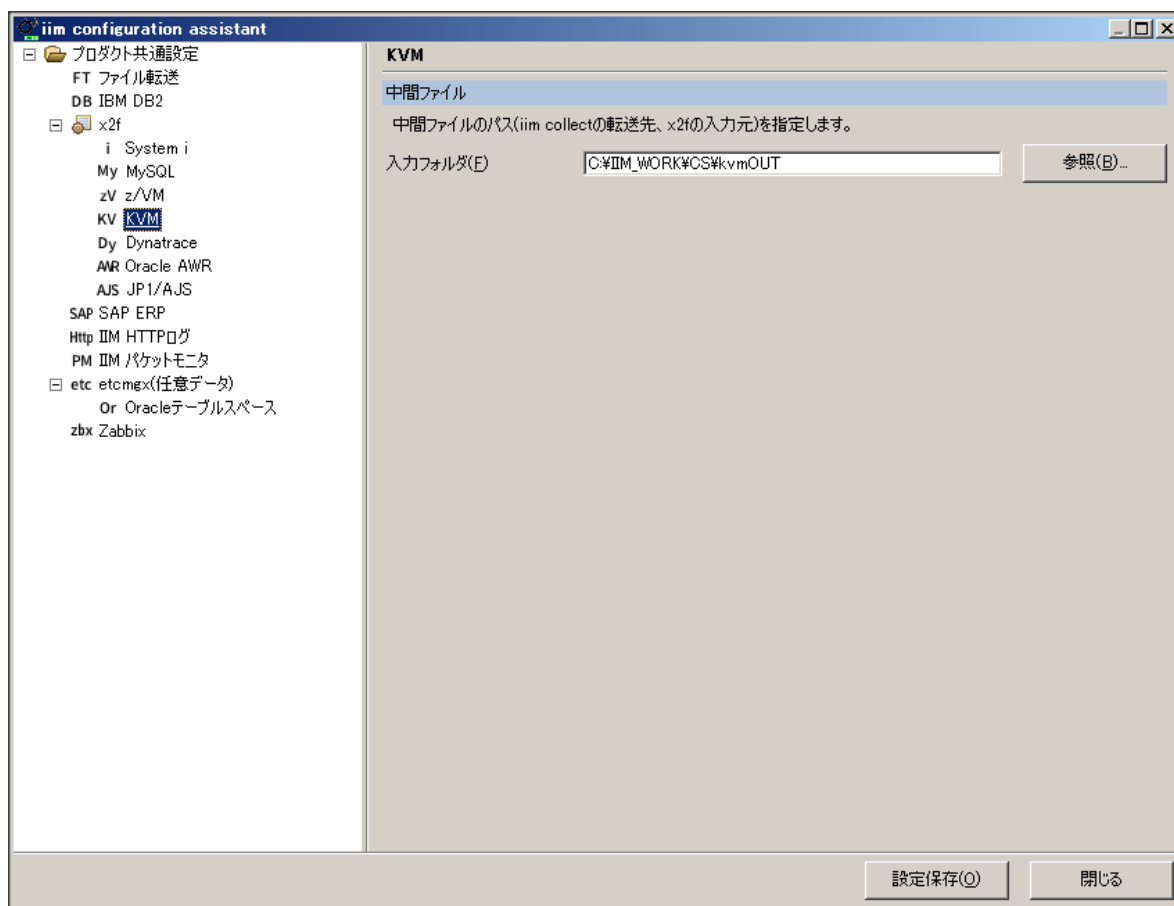
z/VM (zvmconv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(E)	z/VM の中間ファイルのパスを設定します。

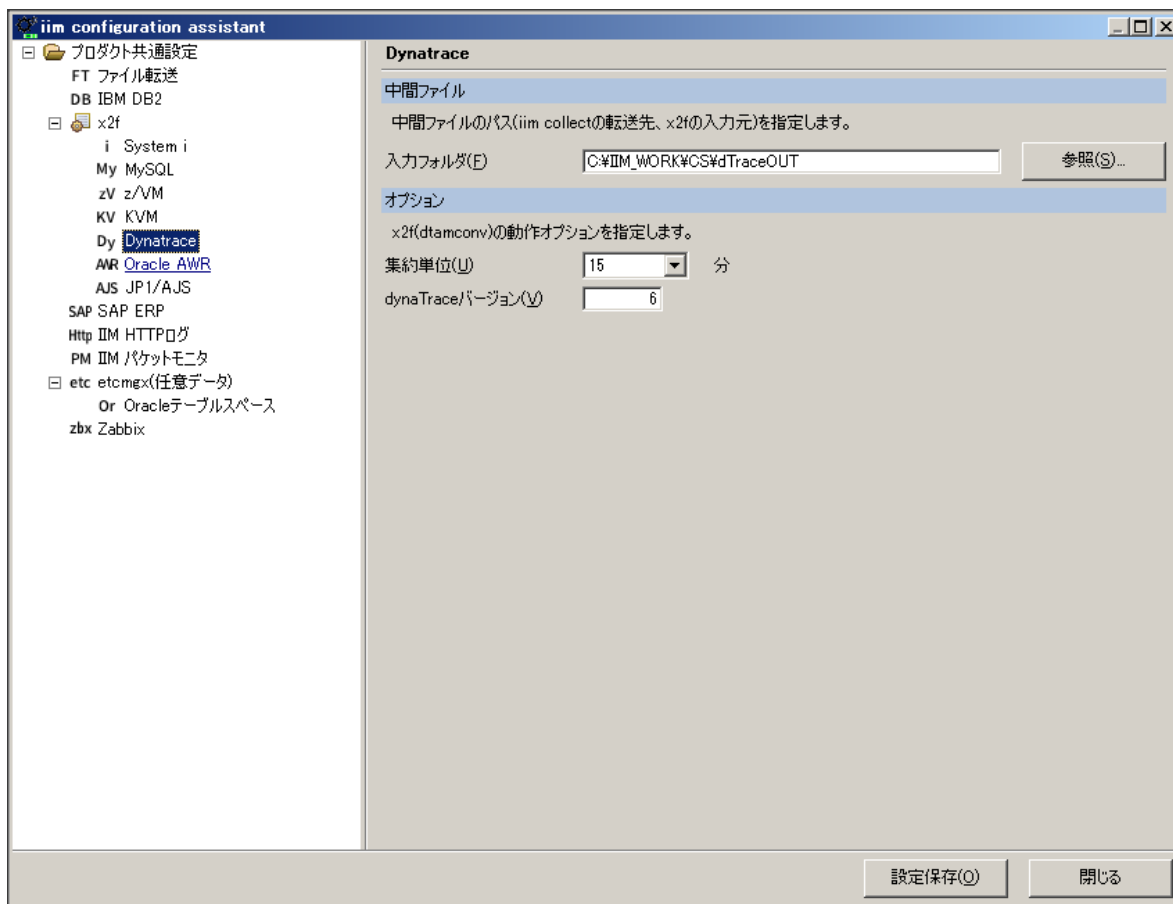
(7)KVM

KVM (kvmconv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(E)	KVM の中間ファイルのパスを設定します。

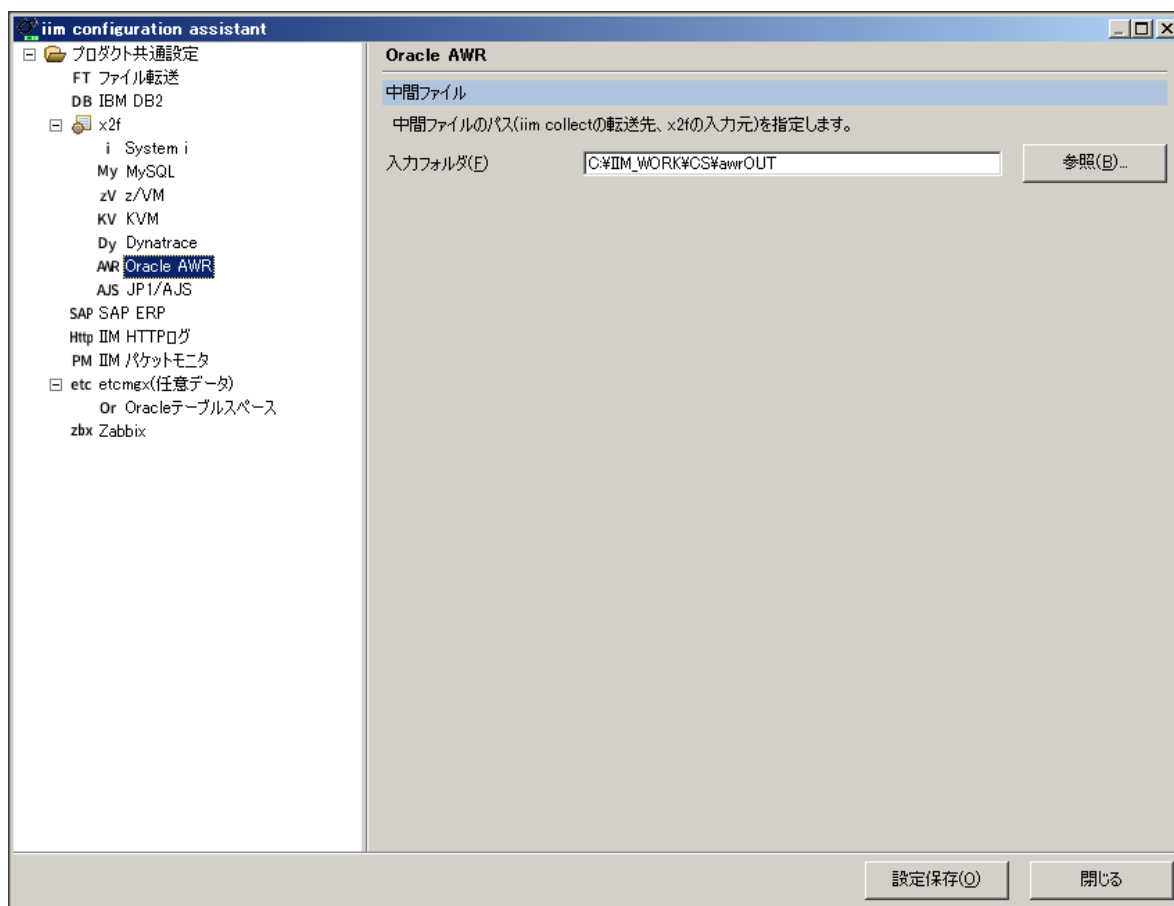
- (8) Dynatrace ※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。
Dynatrace (dtamconv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(F)	Dynatrace の中間ファイルのパスを設定します。
集約単位(U)	集約単位を選択します。 <div data-bbox="566 1377 721 1572"> 2 3 5 10 15 20 30 60 </div>
dynaTrace バージョン(V)	dynaTrace バージョンを設定します。

(9)Oracle AWR

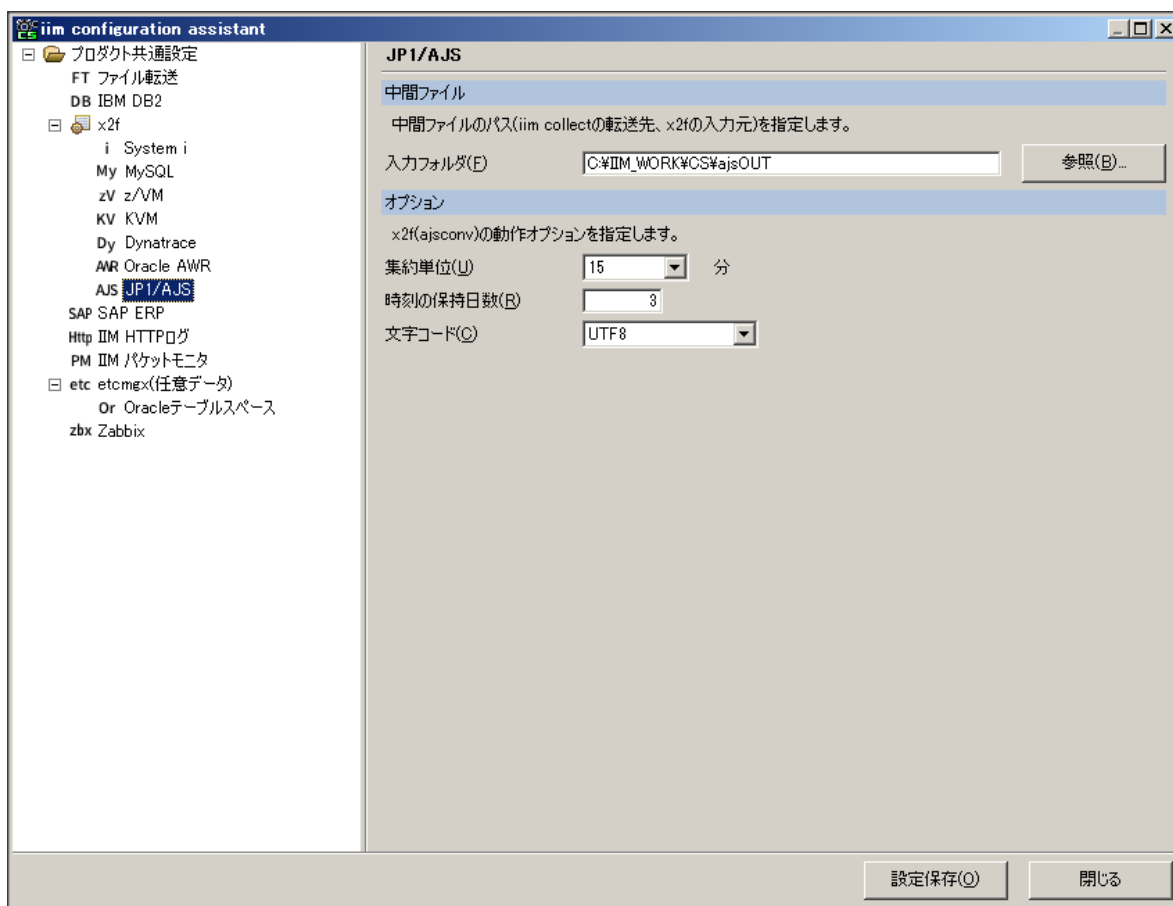
Oracle AWR (awrconv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(F)	Oracle AWR の中間ファイルのパスを設定します。

(10)JP1/AJS

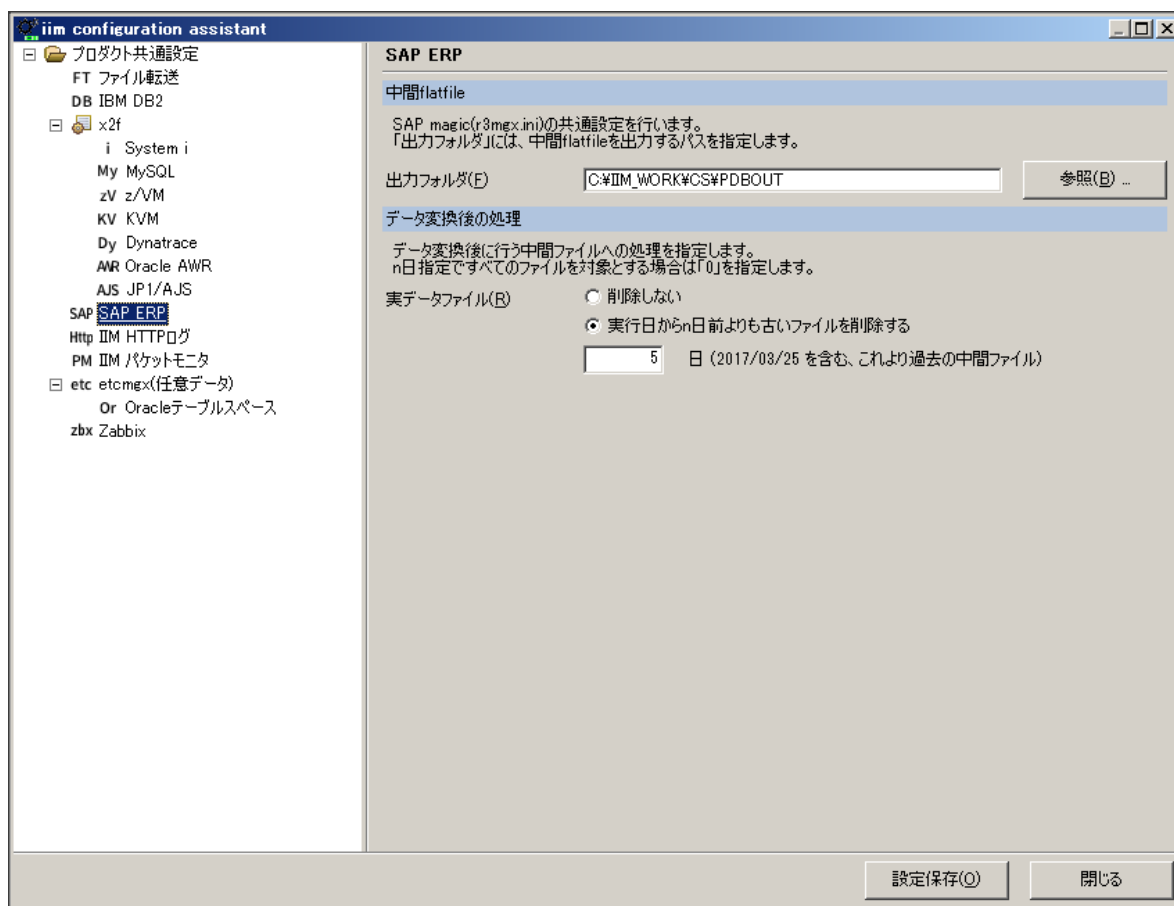
JP1/AJS (ajscnv) の設定を行います。



項目	説明
入力フォルダ(F)	JP1/AJS の中間ファイルのパスを設定します。
集約単位(U)	集約単位を選択します。 <div data-bbox="566 1366 721 1563" data-label="Image"> </div>
時刻の保持日数(R)	差分計算を行う開始時刻情報を保持する日数を設定します。
文字コード(C)	中間ファイルのキャラクターセットを選択します。 <div data-bbox="566 1684 821 1736" data-label="Image"> </div>

(11)SAP ERP

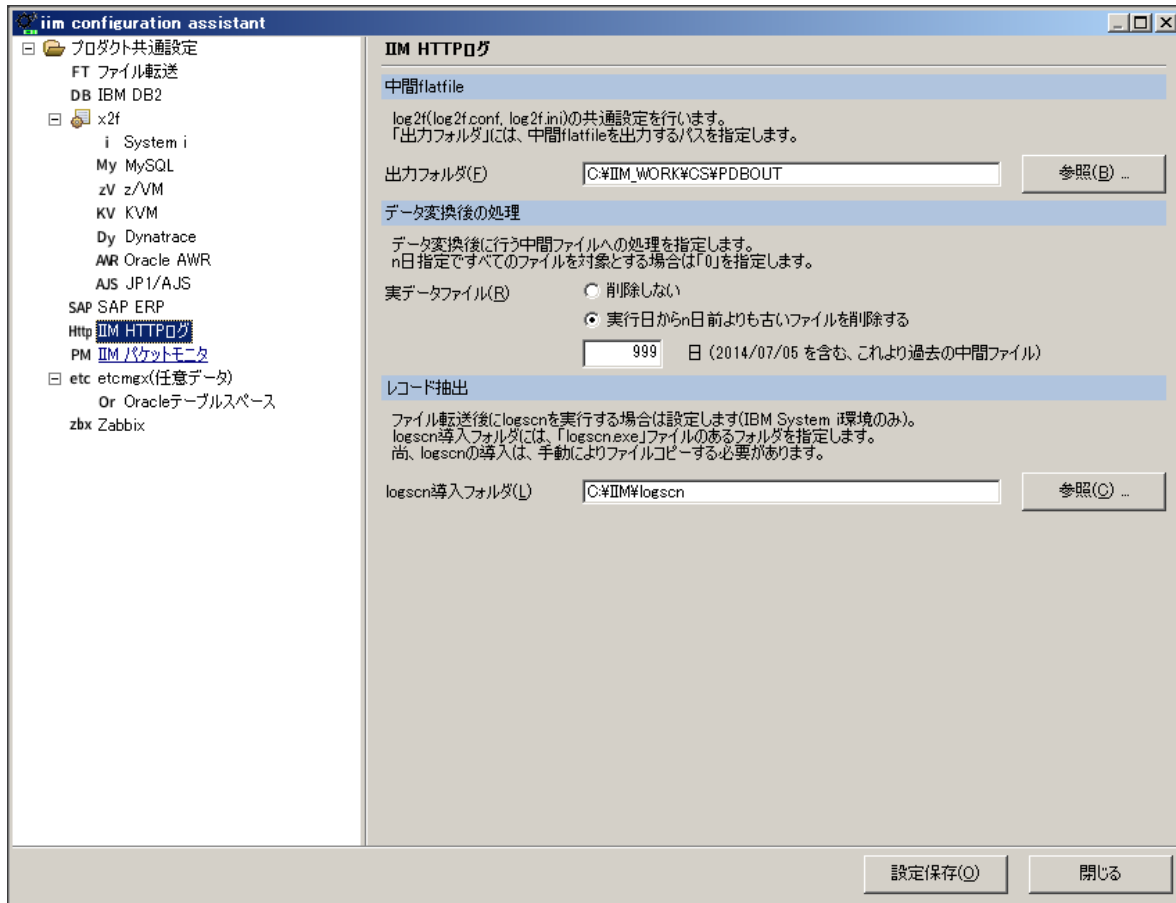
SAP magic (r3mgx.ini) の設定を行います。



項目	説明
出力フォルダ(F)	中間 flatfile を出力するパスを指定します。
実データファイル(R)	データ変換後に中間ファイル（実データファイル）の削除を行うか指定します。

(12)IIM HTTP ログ

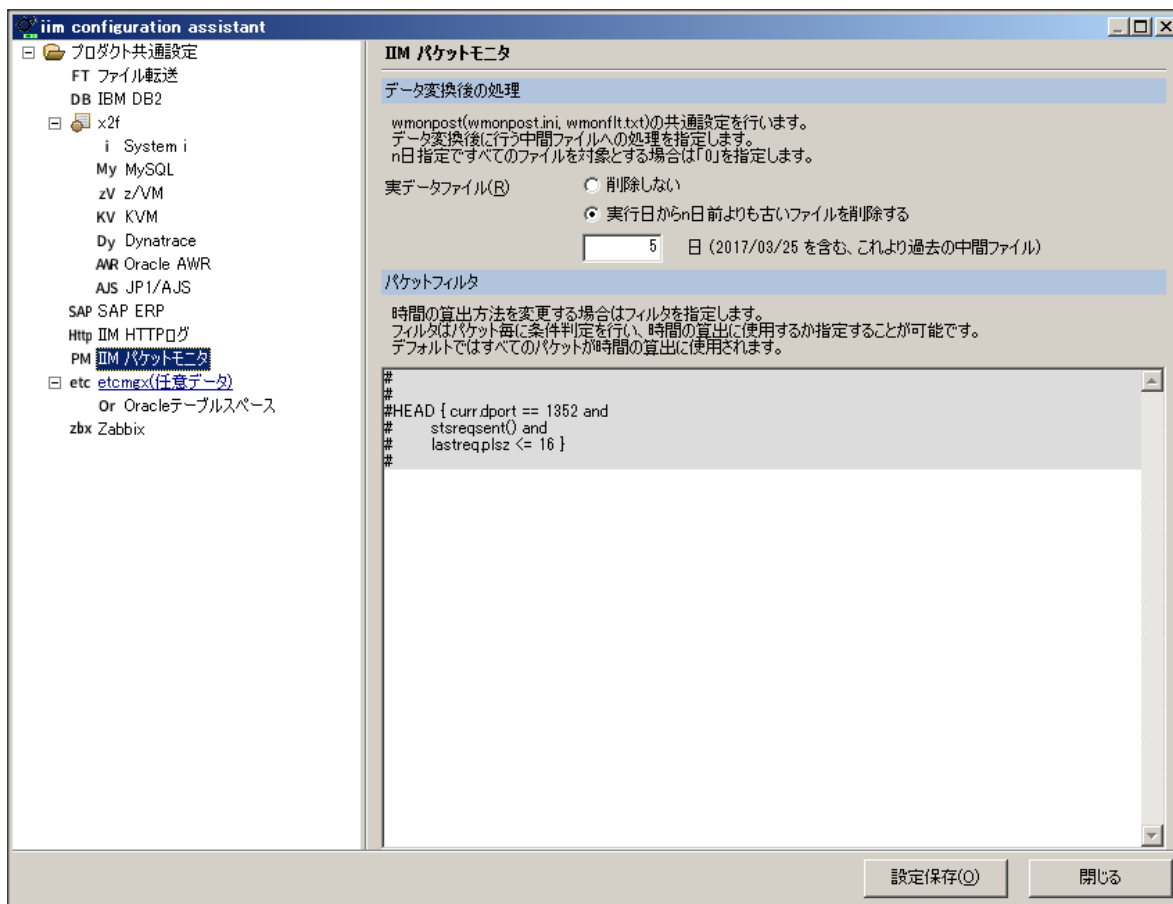
CS-WEB Option HTTP Log Processor log2f (log2f.conf、log2f.ini) の設定を行います。



項目	説明
出力フォルダ(F)	中間 flatfile を出力するパスを指定します。
実データファイル(R)	データ変換後に中間ファイル（実データファイル）の削除を行うか指定します。
logscn 導入フォルダ(L)	「logscn.exe」のあるフォルダを指定します。「2.3.5. ツールー バッチファイルの作成」にて実行するプログラムのフォルダパラメータとして反映されます。

(13)IIM パケットモニタ

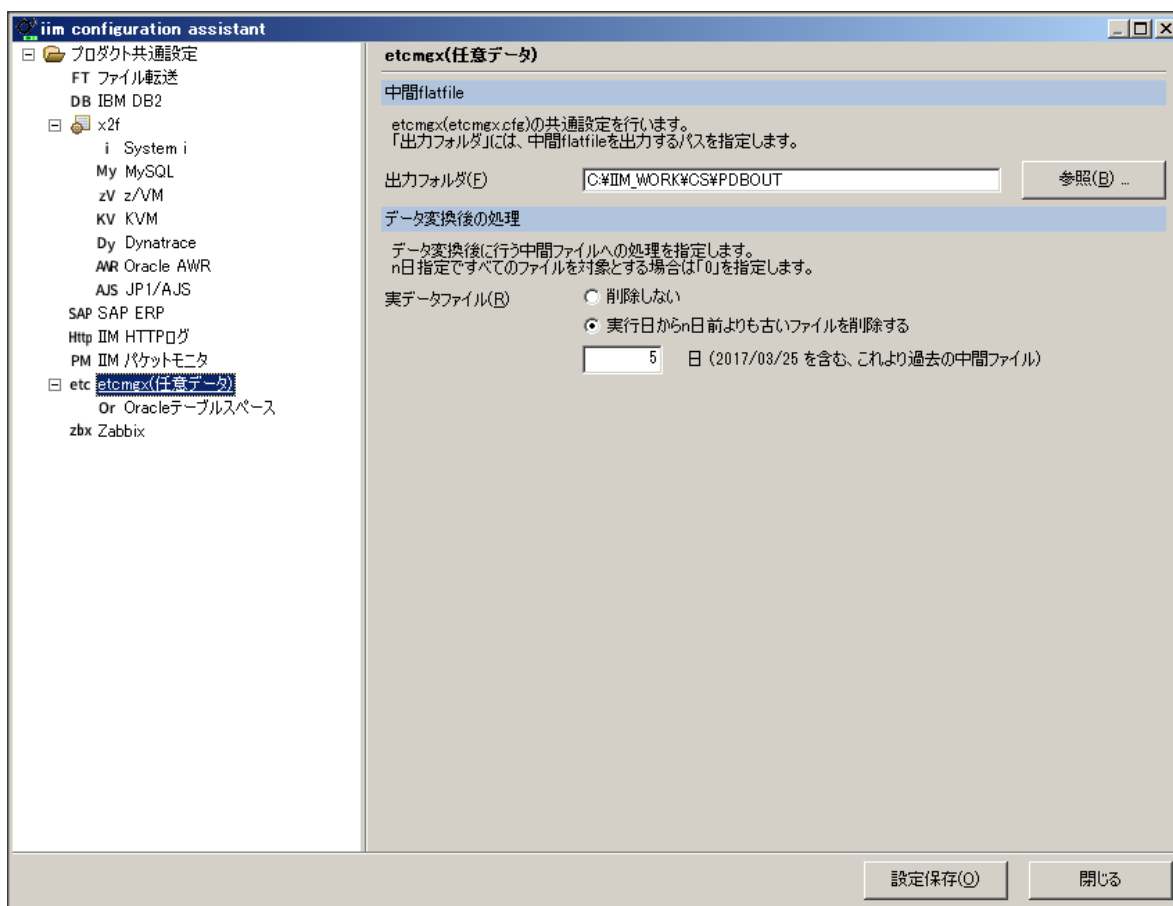
CS-Network Packet Monitor wmonpost (wmonpost.ini、wmonflt.txt) の設定を行います。



項目	説明
実データファイル(R)	データ変換後に中間ファイル（実データファイル）の削除を行うか指定します。
パケットフィルタ	時間の算出方法を変更するフィルタ定義です。詳細は別紙マニュアル「CS-Network Packet Monitor 使用者の手引き 2.2.5. フィルタについて」を参照してください。

(14)etcmgx(任意データ)

CS-CONNECT etcmgx (etcmgx.cfg) の設定を行います。

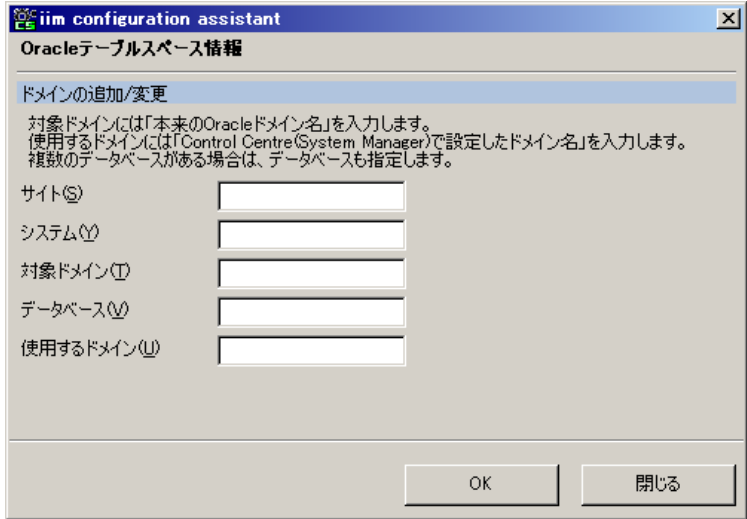


項目	説明
出力フォルダ(F)	中間 flatfile を出力するパスを指定します。
実データファイル(R)	データ変換後に中間ファイル（実データファイル）の削除を行うか指定します。

(15)Oracle テーブルスペース情報

Oracle テーブルスペース情報 (ruleorats0.txt) の設定を行います。Oracle テーブルスペース情報の取込には、CS-CONNECT の etcmgx を使用します。

項目	説明										
中間ファイル(F)	変換対象のファイル名を指定します。ファイル名の指定にはワイルドカード (?, *) が使用可能です。また、ファイル名には必ず「<SITE>」「<SYS>」を含めます。どちらも 1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列がそれぞれサイト、システムとなります。										
	<table> <tr> <th>文字</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>?</td><td>任意の 1 文字にマッチ</td></tr> <tr> <td>*</td><td>0 文字以上の任意の文字にマッチ</td></tr> <tr> <td><SITE></td><td>1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列をサイトとして扱う。</td></tr> <tr> <td><SYS></td><td>1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列をシステムとして扱う。</td></tr> </table>	文字	説明	?	任意の 1 文字にマッチ	*	0 文字以上の任意の文字にマッチ	<SITE>	1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列をサイトとして扱う。	<SYS>	1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列をシステムとして扱う。
文字	説明										
?	任意の 1 文字にマッチ										
*	0 文字以上の任意の文字にマッチ										
<SITE>	1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列をサイトとして扱う。										
<SYS>	1 文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列をシステムとして扱う。										
集約単位(U)	データ集約のインターバル長(分)を選択します。指定しない場合は「空」を選択します。										

項目	説明
Oracle ドメイン名	<p>Oracle ドメイン名を本来のドメイン名から変更します。csqlplus のドメイン名と System Manager のドメイン名を合わせる場合に指定します。</p> 
項目	説明
サイト(S)	CS シリーズで使用するサイト名を指定します。
システム(Y)	CS シリーズで使用するシステム名を指定します。
対象ドメイン(T)	csqlplus が取得している本来のドメイン名を指定します。
データベース(V)	必要に応じて、csqlplus が取得している本来のデータベース名を指定します。
使用するドメイン(U)	変更後のドメイン名 (System Manager での設定) を指定します。

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

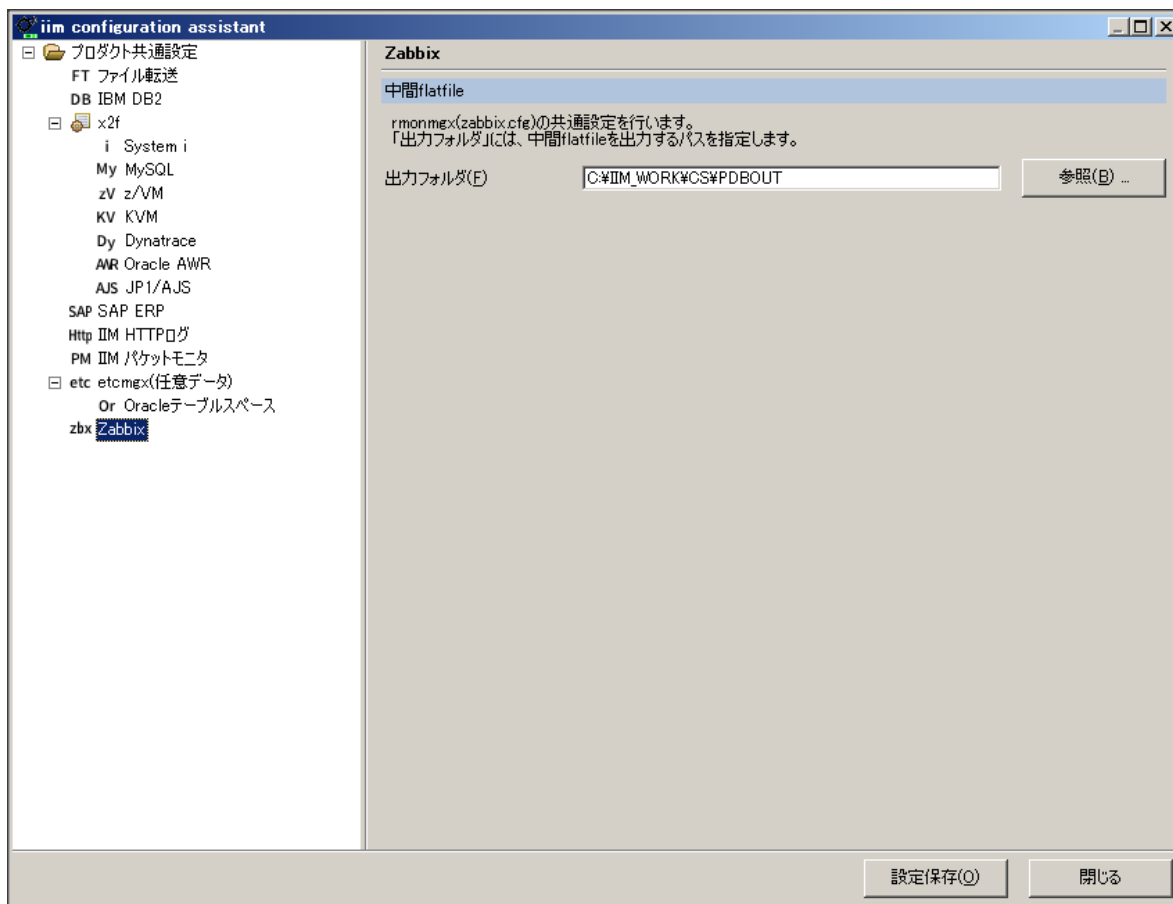
サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

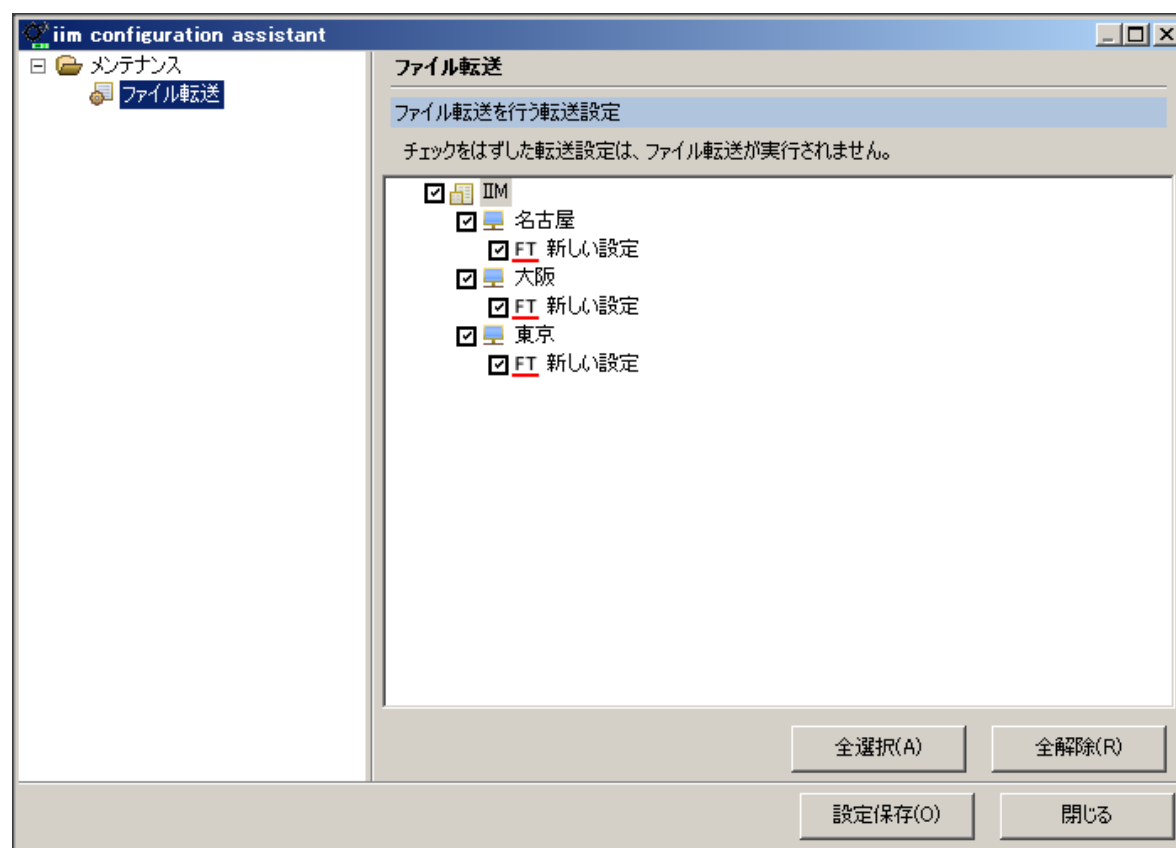
- (16)Zabbix ※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。
rmonmgx(zabbix.cfg)の設定を行います。



項目	説明
出力フォルダ(F)	中間 flatfile を出力するパスを指定します。

2.3.4. メンテナンス

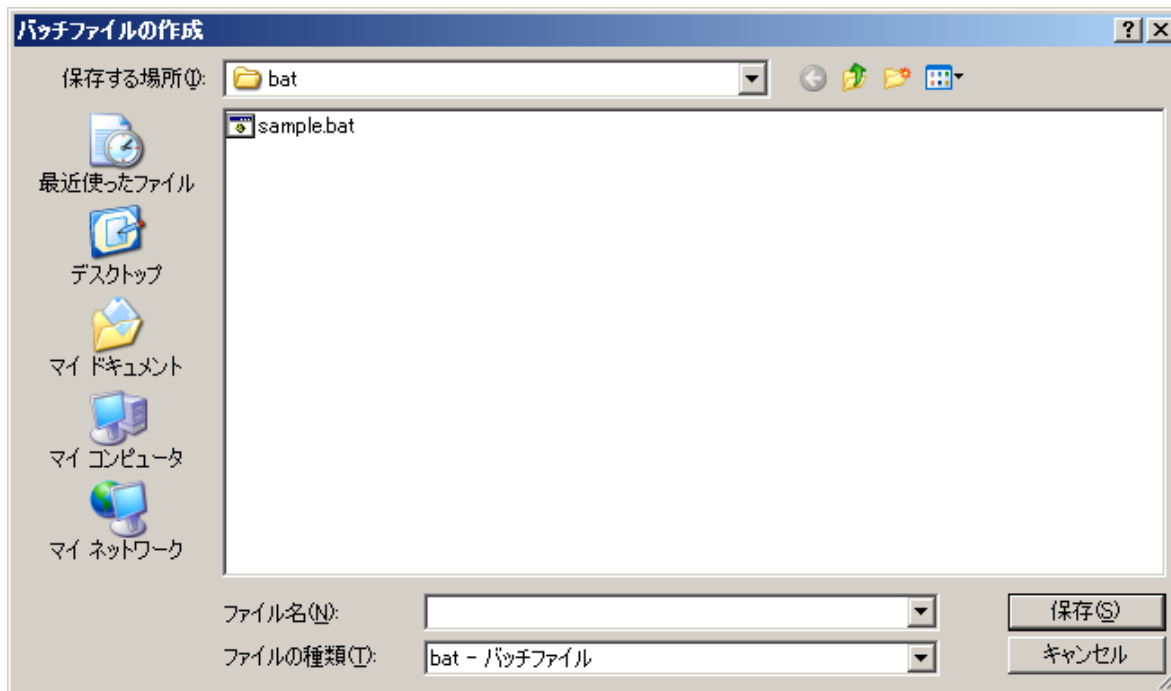
アプリケーションのメンテナンスを行います。



ボタン	機能
ファイル転送を行う転送設定	ファイル転送の有効/無効を設定します。
[全選択(A)]ボタン	すべての設定にチェックを付けます。
[全解除(R)]ボタン	すべての設定のチェックを外します。
[設定保存(O)]ボタン	現在の設定を保存します。
[閉じる]ボタン	この画面を閉じます。

2.3.5. ツール－バッチファイルの作成

現在の転送設定からバッチファイルのテンプレートを作成します。



ボタン	機能
保存(S)	バッチファイルを作成します。
キャンセル	この画面を閉じます。

注意！

作成直後のバッチファイルの内容は、すべてコメントアウトの状態になっています。

また、転送設定によっては実行時のパラメータをユーザが指定しなければならない場合（wmonpost など）があります。

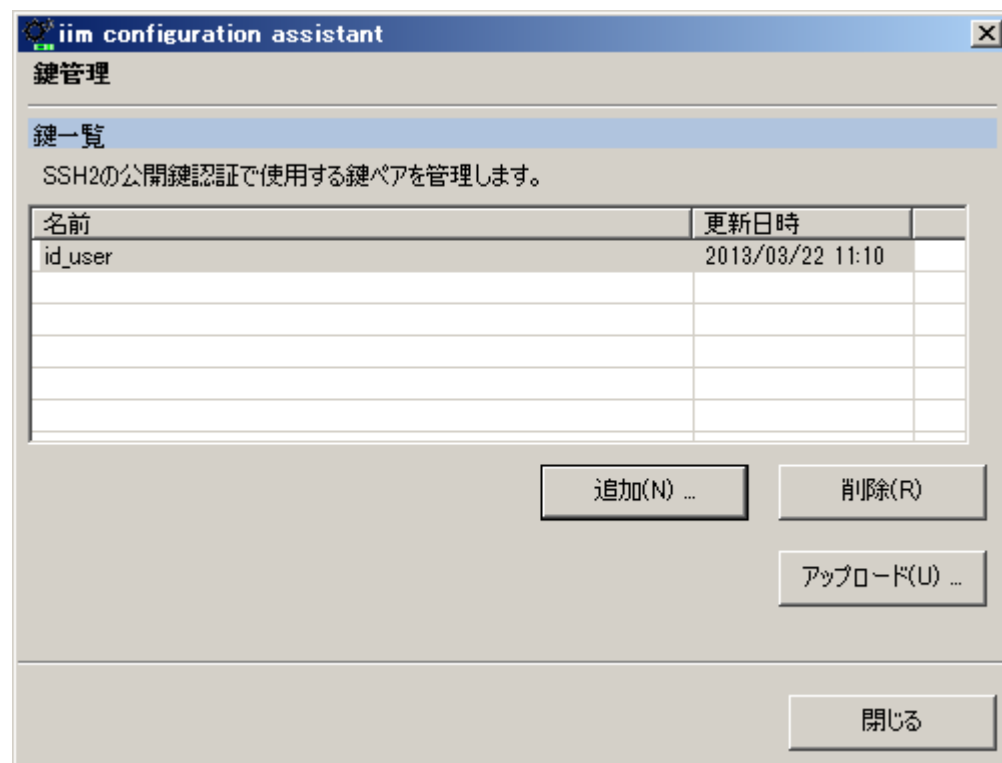
作成したバッチファイルは実行前に必ず内容を確認してください。

2.3.6. ツール－鍵管理

SSH2 接続で使用する鍵ファイルを管理します。

鍵ペアの作成、削除が行えます。

公開鍵は、SSH2 サーバ、または OpenSSH サーバにアップロードすることが可能です。



項目	説明				
[追加(N)]ボタン	「鍵の追加」画面を表示します。				
[削除(R)]ボタン	<p>一覧から選択中の鍵ペアを削除します。</p> <div data-bbox="523 1344 1008 1624" data-label="Image"> </div> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>[(はい(Y))]</td><td>鍵ペアを削除します。</td></tr> <tr> <td>[(いいえ(N))]</td><td>鍵ペアを削除しません。</td></tr> </tbody> </table>	[(はい(Y))]	鍵ペアを削除します。	[(いいえ(N))]	鍵ペアを削除しません。
[(はい(Y))]	鍵ペアを削除します。				
[(いいえ(N))]	鍵ペアを削除しません。				
[アップロード(U)]ボタン	「鍵のアップロード」画面を表示します。				
[閉じる]ボタン	この画面を閉じます。				

(1)鍵の追加

項目	説明
名前(N)	鍵ペアのファイル名を指定します。
種類(Y)	鍵ペアの種類を指定します。「RSA」固定でユーザは変更できません。
サイズ(S)	鍵ペアのサイズを指定します。 <div> 1024 2048 (推奨) 4096 8192 </div>
パスフレーズ(P)	鍵ペアのパスフレーズを指定します。
[OK]ボタン	鍵ペアを作成します。サイズの値が大きいほど、作成に時間が掛かります。
[キャンセル]ボタン	この画面を閉じます。

メモ !

鍵ファイルは「<CS 導入フォルダ>¥iimcllct¥iimssh¥.ssh」フォルダに保存されます。
 秘密鍵のファイル名は「<名前(N)に指定した値>」、SSH2 用公開鍵のファイル名は「<秘密鍵>.pub」、
 OpenSSH 用公開鍵のファイル名は「<秘密鍵>.openssh.pub」となります。
 商用 SSH クライアントで作成した鍵を使用する場合は、上記のパスに配置してください。

メモ !

「Attachmate Reflection for Secure IT」で鍵を作成する場合は、OpenSSH 形式に変換してください。
 (手順)

1. 鍵ペア作成 (Generate) し、サーバにアップロード (Upload) します。
 2. 鍵を選択した状態で [Export] ボタンを押下します。
 3. 「Export Private Key」と「Save in OpenSSH format」にチェックを付けて、[OK] ボタンを押下します。
 4. エクスポート済みの鍵ペアを上記のパスに配置します。
 5. iim configuration assistant を起動すると、エクスポート済みの鍵ペアが選択できるようになります。
- ※ エクスポート元の鍵ファイルがサーバの鍵束ファイルに登録されている場合は、エクスポートした鍵ファイルを再度登録する必要はありません。

(2)鍵のアップロード

iim configuration assistant

鍵のアップロード

アップロード先情報

SSH2、OpenSSHサーバにパスワード認証し、公開鍵を配置します。

ホスト(H)

ポート番号(S)

☒ GSSAPI認証を行う(G)

☐ SunSSH向けの認証を行う(N)

ユーザ(U)

パスワード(T)

サーバ種別(Y)

配置先ディレクトリ(D)

鍵束ファイル(R)

OK キャンセル

項目	説明
ホスト(H)	アップロード先のホストを指定します。
ポート番号(S)	ポート番号を指定します。
GSSAPI 認証を行う(G)	GSSAPI 認証を行う場合はチェックします。
SunSSH 向けの認証を行う(N)	SunSSH を使用する場合はチェックします。
ユーザ(U)	パスワード認証を行うユーザを指定します。
パスワード(T)	ユーザのパスワードを指定します。
サーバ種別(Y)	サーバの種別を指定します。 <div><div>SSH2</div><div>OpenSSH</div></div>
配置先ディレクトリ(D)	公開鍵、鍵束ファイルの配置先ディレクトリを指定します。
鍵束ファイル(R)	鍵束ファイルのファイル名を指定します。
[OK]ボタン	アップロードします。
[キャンセル]ボタン	この画面を閉じます。

メモ！

鍵のアップロードでは、以下の作業を行います。

1.「サーバ種別(Y)」が「SSH2」の場合

- ・公開鍵「<秘密鍵>.pub」をリモートの「配置先ディレクトリ(D)」に PUT(上書き)する。
- ・リモートから「鍵束ファイル(R)」を GET する。
- ・ローカルの「鍵束ファイル(R)」の末尾に「key <公開鍵>」を追記する。
- ・「鍵束ファイル(R)」をリモートの「配置先ディレクトリ(D)」に PUT(上書き)する。

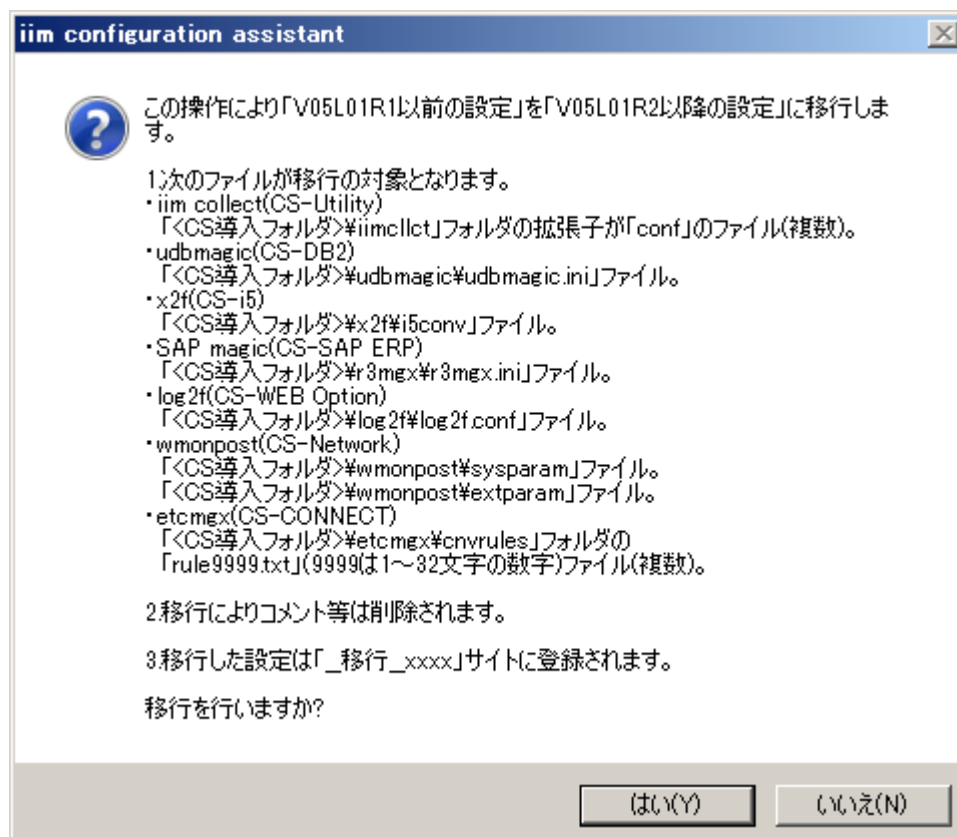
2.「サーバ種別(Y)」が「OpenSSH」の場合

- ・リモートから「鍵束ファイル(R)」を GET する。
 - ・ローカルの「鍵束ファイル(R)」の末尾に公開鍵「<秘密鍵>.openssh.pub」に記述されている文字列を書き込む。
 - ・「鍵束ファイル(R)」をリモートの「配置先ディレクトリ(D)」に PUT(上書き)する。
- 「サーバ種別(Y)」などを誤ってアップロードを行った場合は、手動で修正する必要があります。

2.3.7. ツール – 既存設定からの移行

V05L01R1 以前の設定を移行します。これにより、新規に転送設定を作成した場合と同様に、画面からの設定変更が可能となります。対象となる設定ファイルは「1.1. 対象プロダクト」を参照してください。移行を行わない場合でも各プロダクトの実行に影響はありませんが、設定変更の際には必ず移行してください。

移行した設定は「__移行_xxxx (xxxx はプロダクト名)」サイトに追加されます。



第3章 設定項目

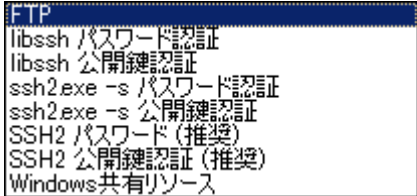



「2.2.1. 転送設定の追加」または「2.2.2. 転送設定の変更」により設定する項目の詳細情報です。変更を保存する場合は[設定保存(O)]ボタンを押下します。

3.1. ファイル転送

iim collect の設定を行います。

3.1.1. 接続

接続先のサーバ情報とオプションを指定します。

項目	説明
設定ファイル(F)	設定を保存するファイルを入力します。ファイル転送は設定ファイル単位で行います。日次バッチ、月次バッチなど実行単位が異なる場合は、それぞれにファイル名を割り当ててください。
プロトコル(P)	<p>ファイル転送に使用するプロトコルを選択します。</p> <p>「libssh」、および「ssh2.exe」は過去との互換性のために定義されています。</p> <p>新規に SFTP 接続を行う場合は「SSH2」を選択してください。</p> <p>データソースが「IBM System i 統計情報」または「IBM System i HTTP アクセスログ」の場合は、「FTP」で固定されます。</p>  <p>「SSH2 パスワード認証(推奨)」、「SSH2 公開鍵認証(推奨)」の場合は、[接続確認(K)]ボタンが有効になります。接続ページのホスト(IP)、ユーザ、パスワードと SFTP ページの SFTP ポート、鍵ペアにより、事前に認証可能であるかを確認します。</p> <p>認証が成功した場合は、リモートパスの妥当性についても報告します。</p>
ホスト(H)	プロトコルが「Windows 共有リソース」以外の場合はホスト、または IP は必須項目です。接続先のホスト名を入力します。
IP(I)	接続先の IP アドレスを入力します。
共有リソース名(A)	プロトコルが「Windows 共有リソース」の場合は必須項目です。 接続先の共有リソース名を「¥¥コンピュータ名¥共有名[¥ボリューム]」形式で指定します。
ユーザ(U)	<p>接続するユーザ名を指定します。ファイル転送とリネーム、または削除に必要な権限を持つユーザ名を指定してください。</p> <p>プロトコルが「Windows 共有リソース」で、ドメインユーザの場合は「DomainName¥UserName」形式で指定します。</p>
パスワード(S)	<p>ログインパスワード、またはパスフレーズを指定します。</p> <p>設定保存により、自動的に暗号化され、次回以降はマスクされた状態で表示されます。</p> 
リモートパス(R)	<p>転送元のリモートディレクトリを指定します。</p> <p>プロトコルが「Windows 共有リソース」の場合は、転送元のボリューム（「¥¥コンピュータ名¥共有名[¥ボリューム]」形式）を指定します。</p>
作業ディレクトリ(D)	<p>リモートのファイル一覧を取得する際に作業ディレクトリを変更するかを指定します。</p> 
ローカルパス(L)	<p>転送先のローカルフォルダを指定します。</p> <p>存在するフォルダを指定してください。</p>
転送モード(M)	<p>転送モードを選択します。</p> 

タイムアウト(T)	接続先ホストからの応答が得られない場合に、待機する時間をマイクロ秒単位で指定します。 環境によっては認証に時間が掛ることがあります。ファイル転送が不定期に失敗する場合は、タイムアウトの延長を検討してください。
-----------	---

3.1.2. 対象ファイル

転送するファイルと転送後に行う処理を指定します。

項目	説明						
差分モード(D)	前回転送したファイル名を記憶し、それ以降のファイルを転送対象とするかを指定します。 ファイル名によるソートにより転送を判断しますので、命名規則によっては使用できません。 <div><div>無効</div><div>有効 - 最新ファイルも転送する</div><div>有効 - 最新ファイルは転送しない</div></div>						
最後のファイル名(L)	差分転送により、最後に転送されたファイル名が表示されます。						
ワイルドカード(W)	収集対象ファイルのフィルタをワイルドカード指定します。 「ワイルドカード(W)」を指定した場合、「プレフィックス(P)」と「サフィックス(S)」の指定は無視されます。 <table><tr><th>文字</th><th>説明</th></tr><tr><td>?</td><td>任意の 1 文字にマッチ</td></tr><tr><td>*</td><td>0 文字以上の任意の文字にマッチ</td></tr></table>	文字	説明	?	任意の 1 文字にマッチ	*	0 文字以上の任意の文字にマッチ
文字	説明						
?	任意の 1 文字にマッチ						
*	0 文字以上の任意の文字にマッチ						
プレフィックス(P)	収集対象ファイルのプレフィックスを指定します。 サフィックスも指定した場合は AND 条件として扱います。						
サフィックス(S)	収集対象ファイルのサフィックスを指定します。						
処理(A)	ファイル転送が成功した場合に行う処理を選択します。 <div><div>何もしない</div><div>リネームする</div><div>削除する</div></div>						
リネームプレフィックス(E)	処理が「リネームする」の場合に指定します。 対象のリモートファイル名に与えるプレフィックスを入力します。また、対象のリモートファイル名のプレフィックスと同じ場合は転送対象としません。						

3.1.3. FTP

FTP プロトコルのオプションを指定します。

設定 - ファイル転送

FTP

FTPの設定を指定します。

セッションポート(S)

データポート(D)

接続方法(P)


☐ IPアドレスが異なる場合のファイル転送を許可する(A)

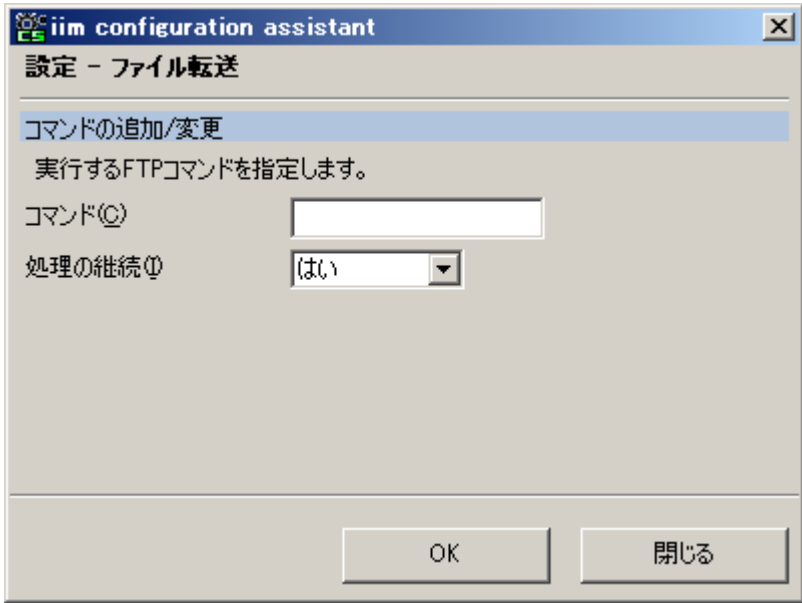
ログイン前に実行するコマンド

ログイン前に実行するコマンドを指定します。

コマンド	処理の継続

追加(N) ... 変更(E) ... 削除(R)

項目	説明
セッションポート(S)	接続先ホストのセッションポート番号を指定します。
データポート(D)	接続先ホストのデータポート番号を指定します。
接続方法(P)	接続方法を選択します。 
IP アドレスが異なる場合のファイル転送を許可する(A)	プロトコルが「FTP」、接続方法が「アクティブ」の場合にのみ選択可能です。 データ転送において、データコネクションのピアの IP アドレスがセッションコネクションのピアの IP アドレスと異なってもファイルの受信を行います。 マルチホームホストに対する転送で経路が安定しない場合、このオプションが必要となることがあります。
ログイン前に実行するコマンド	ログイン (USER と PASS コマンドの送信) 前に送信するコマンドを設定します。 コマンドは表示順で送信します。順番の変更は[▲][▼]ボタンで行います。

項目	説明						
[追加(N)...]ボタン	<p>ログイン（USER と PASS コマンドの送信）前に送信するコマンドを追加します。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コマンド(C)</td><td>実行するコマンドを指定します。</td></tr> <tr> <td>処理の継続(I)</td><td> 「はい」を指定すると、コマンドに対するレスポンスコードが“4xx”や“5xx”であっても処理を続行します（“4xx”、“5xx”はエラーコードです）。 「いいえ」を指定すると、レスポンスコードが“4xx”または“5xx”であった場合は処理を中止します。 </td></tr> </tbody> </table>	項目	説明	コマンド(C)	実行するコマンドを指定します。	処理の継続(I)	「はい」を指定すると、コマンドに対するレスポンスコードが“4xx”や“5xx”であっても処理を続行します（“4xx”、“5xx”はエラーコードです）。 「いいえ」を指定すると、レスポンスコードが“4xx”または“5xx”であった場合は処理を中止します。
項目	説明						
コマンド(C)	実行するコマンドを指定します。						
処理の継続(I)	「はい」を指定すると、コマンドに対するレスポンスコードが“4xx”や“5xx”であっても処理を続行します（“4xx”、“5xx”はエラーコードです）。 「いいえ」を指定すると、レスポンスコードが“4xx”または“5xx”であった場合は処理を中止します。						
[変更(E)...]ボタン	選択したコマンドを変更します。						
[削除(R)]ボタン	選択したコマンドを削除します。						

3.1.4. SFTP

SFTP プロトコルのオプションを指定します。

設定 - ファイル転送

SFTP

鍵ペアは[環境]-[ツール]-[鍵管理]で作成します。

SFTPポート(S)

22

☒ GSSAPI認証を行う(G)
☐ SunSSH向けの認証を行う(N)

鍵ペア(K)

公開鍵(U)

参照(B) ...

秘密鍵(R)

参照(N) ...

項目	説明
SFTP ポート(S)	SFTP プロトコルのポート番号を入力します。
GSSAPI 認証を行う(G)	GSSAPI 認証を行う場合はチェックします。
SunSSH 向けの認証を行う(N)	SunSSH を使用する場合はチェックします。
鍵ペア(K)	SSH2 公開鍵認証時に使用する鍵ペアを指定します。 鍵ペアの作成方法は「2.3.6. ツール - 鍵管理」を参照してください。
公開鍵(U)	SFTP プロトコルの公開鍵ファイルを入力します。 パスフレーズの場合はマスクされます。
秘密鍵(R)	SFTP プロトコルの秘密鍵ファイルを入力します。 パスフレーズの場合はマスクされます。

3.1.5. System i

IBM System i のオプションを指定します。

設定 - ファイル転送

System i

System i の設定を指定します。

転送するファイル(F)


ネームフォーマット(N)

☒ 最新ファイルを除外する(E)

☒ サブディレクトリ内のファイルを対象にする(S)

HTTPアクセスログ(H)

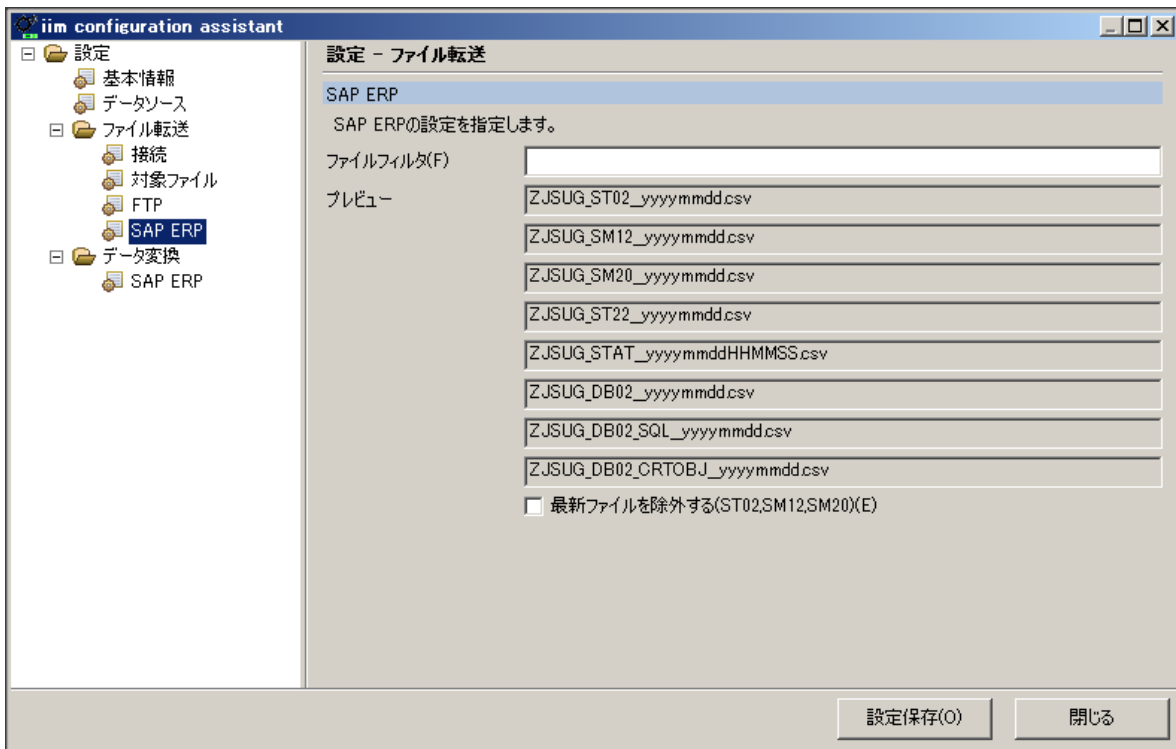
プレビュー

項目	説明
転送するファイル(I)	データソースが「IBM System i 統計情報」の場合は、「パフォーマンス統計情報」で固定されます。 データソースが「IBM System i HTTP アクセスログ」の場合は、「HTTP アクセスログ」で固定されます。
ネームフォーマット(N)	転送するファイルが「パフォーマンス統計情報」の場合に指定します。収集するファイル名のフォーマットを選択します。 Q は固定文字列、xxx はリソース名、ddd は 1 月 1 日からの通日、hhmmss は収集開始時刻、.MBR は固定文字列です。対象ファイルで指定するファイル名の指定は無視されます。 
最新ファイルを除外する(E)	選択項目です。 リソース毎の最新ファイルを転送対象から除外するか指定します。これにより、書き込み中のファイルを転送する危険がなくなります。PM/400 と iim collect を同時に実行する場合は選択してください。

項目	説明
サブディレクトリ内のファイルを対象にする(S)	<p>転送するファイルが「パフォーマンス統計情報」で、ネームフォーマットが「Qdddhmmss.MBR」の場合に指定します。</p> <p>リモートディレクトリに指定したディレクトリ配下のディレクトリを収集対象とするか指定します。</p>
HTTP アクセスログ(H)	<p>転送するファイルが「HTTP アクセスログ」の場合に指定します。</p> <p>「xxxx.Qcyymmddhh」形式のファイルを収集対象とします。</p> <p>xxxx はユーザ任意の文字列、c は世紀フラグ、yy は西暦下 2 桁の年、mmdd は年月、hh は収集開始時刻です。</p>

3.1.6. SAP ERP

SAP ERP のオプションを指定します。



項目	説明
ファイルフィルタ(F)	<p>ABAP モジュールが取得した SAP ERP 統計情報のファイル名の一部を入力します。実際に対象となるファイル名はプレビューにて確認します。</p> <p>(例)</p> <p>転送対象ファイル名が次のような場合には、「IIM_CS_INSX」と指定します。</p> <p>ZJSUG_STAT_IIM_CS_INSX_20040101000000.csv ZJSUG_ST02_IIM_CS_INSX_20040101.csv</p> <p>「ZJSUG_XXXX」で始まる以下の SAP ERP 統計情報ファイルは、枠線部がファイルフィルタと一致すれば転送され、一致しなければ転送されません。</p> <ul style="list-style-type: none">・ZJSUG_ST02・ZJSUG_SM20・ZJSUG_ST22・ZJSUG_STAT・ZJSUG_DB02・ZJSUG_DB02_SQL・ZJSUG_DB02_CRTOBJ
最新ファイルを除外する(E)	<p>SAP ERP 統計情報のファイル名の形式のうち、「ST02」「SM12」「SM20」について最新のファイルを転送対象から除外するか指定します。</p> <p>導入直後の転送確認以外では指定してください。</p>

注意！

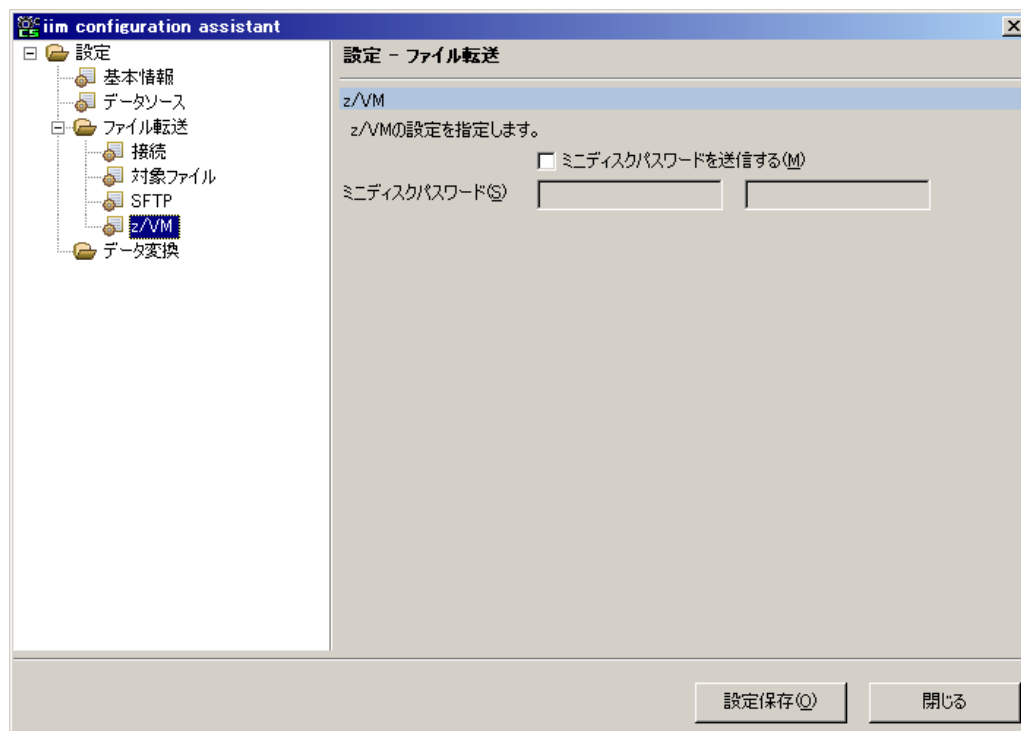
- (1) ABAP モジュールが書き込んでいる途中のファイルを iim collect が転送してしまうことを避けるために、必ずファイルフィルタを指定してください。
- (2) 「ZJSUG_XXXX」で始まらないファイル、あるいは、「ZJSUG_XXXX」で始まってもファイルフィルタを指定しない場合、iim collect は「3.1.2. 対象ファイル」の「ワイルドカード」、「プレフィックス」、「サフィックス」によるマッチングが一致したファイルを転送します。もし、何れも指定していないと、すべてのファイルが転送されます。従って、転送対象ディレクトリに SAP ERP 統計情報以外のファイルも存在している状態で、ABAP の SAP ERP 統計情報ファイルのみを転送するには、下記の例のように「3.1.2. 対象ファイル」の「ワイルドカード」「プレフィックス」を空欄、「サフィックス」に「/」を指定した上で、実際のファイルフィルタを指定してください。

設定 - ファイル転送	
収集対象とする中間ファイルのファイル名	
収集するファイル名を指定します。	
ワイルドカード(W)	<input type="text"/>
プレフィックス(P)	<input type="text"/>
サフィックス(S)	<input type="text" value="/"/>

設定 - ファイル転送	
SAP ERP	
SAP ERPの設定を指定します。	
ファイルフィルタ(F)	<input type="text" value="SAMPLE"/>
プレビュー	<input type="text" value="ZJSUG_ST02_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_SM12_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_SM20_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_ST22_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_STAT_SAMPLE_yyyymmddHHMMSS.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_DB02_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_DB02_SQL_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/> <input type="text" value="ZJSUG_DB02_CRTOBJ_SAMPLE_yyyymmdd.csv"/>
<input type="checkbox"/> 最新ファイルを除外する(ST02,SM12,SM20)(E)	

3.1.7. z/VM

z/VM のオプションを指定します。



項目	説明
ミニディスクパスワードを送信する(M)	ミニディスクのパスワードを送信するか指定します。
ミニディスクパスワード(S)	送信するミニディスクパスワードを指定します。 設定保存により、自動的に暗号化されます。

3.2. データ変換

udbmagic などのデータ変換プログラムの設定を行います。

3.2.1. IBM DB2

CS-DB2 udbmagic の設定を行います。

設定 - データ変換

IBM DB2

udbmagicの設定を行います。

中間ファイルパス(L) 参照(B) ...

サイト(S)

システム(Y)

項目	説明
中間ファイルパス(L)	データ変換前のファイルのパスを入力します。 パスは通常「3.1.1. 接続」の「ローカルパス(L)」で指定したパスと一致させます (iim collect の転送先が変換プログラムの入力元になります)。
サイト(S)	サイト名として何を使用するのか (形式) を指定します。 <div><div>データベース別名 データベース実名 ノード名 コンピュータ名 固定</div><p>「固定」の場合は、任意のサイトを入力します。通常は変更しません。</p></div>
システム(Y)	システム名として何を使用するのか (形式) を指定します。 <div><div>データベース別名 データベース実名 ノード名 コンピュータ名 固定</div><p>「固定」の場合は、任意のシステムを入力します。通常は変更しません。</p></div>

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

3.2.2. System i 統計情報

CS-i5 x2f の設定を行います。

設定 - データ変換

System i 統計情報

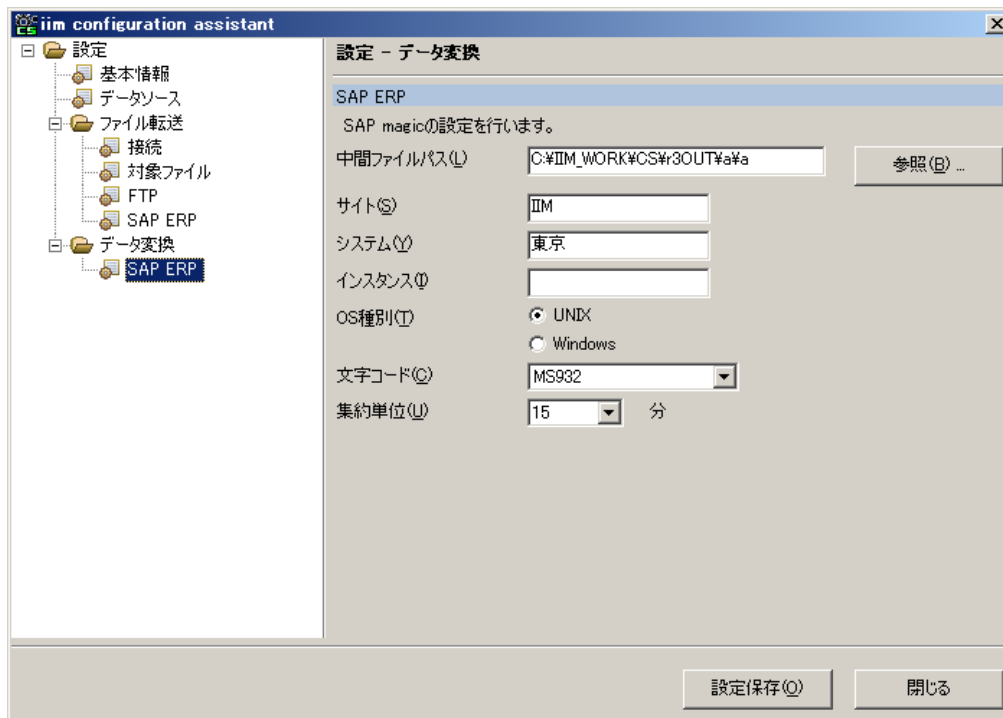
x2fの設定を行います。

設定ファイル(F)	<input type="text" value="C:\IIM\CS\x2f\i5conv1"/>	<input type="button" value="参照(B) ..."/>
中間ファイルパス(L)	<input type="text" value="C:\IIM_WORK\CS\i5OUT"/>	<input type="button" value="参照(N) ..."/>

項目	説明
設定ファイル(F)	設定を保存するファイルを入力します。 既存のファイルは指定できません。
中間ファイルパス(L)	データ変換前のファイルのパスを入力します。 パスは「任意のフォルダ¥<サイト>¥<システム>」形式の「任意のフォルダ」までを入力します。サイト、システムのフォルダは含めません。

3.2.3. SAP ERP

SAP magic の設定を行います。



項目	説明
中間ファイルパス(L)	データ変換前のファイルのパスを入力します。 パスは通常「3.1.1. 接続」の「ローカルパス(L)」で指定したパスと一致させます（iim collect の転送先が変換プログラムの入力元になります）。
サイト(S)	サイトを入力します。 通常は変更しません。
システム(Y)	システムを入力します。 通常は変更しません。
インスタンス(I)	インスタンスを入力します。
OS 種別(I)	OS 種別を選択します。
文字コード(C)	データ変換前のファイルの文字コードを指定します。 <div data-bbox="523 1536 823 1592" data-label="Image"> </div> 選択肢の文字コードはそれぞれ以下の通りです。 MS932 : Microsoft Windows 漢字コード UTF8 : UTF-8
集約単位(U)	データ集約のインターバル長（分）を選択します。 <div data-bbox="523 1839 660 2038" data-label="Image"> </div>

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例

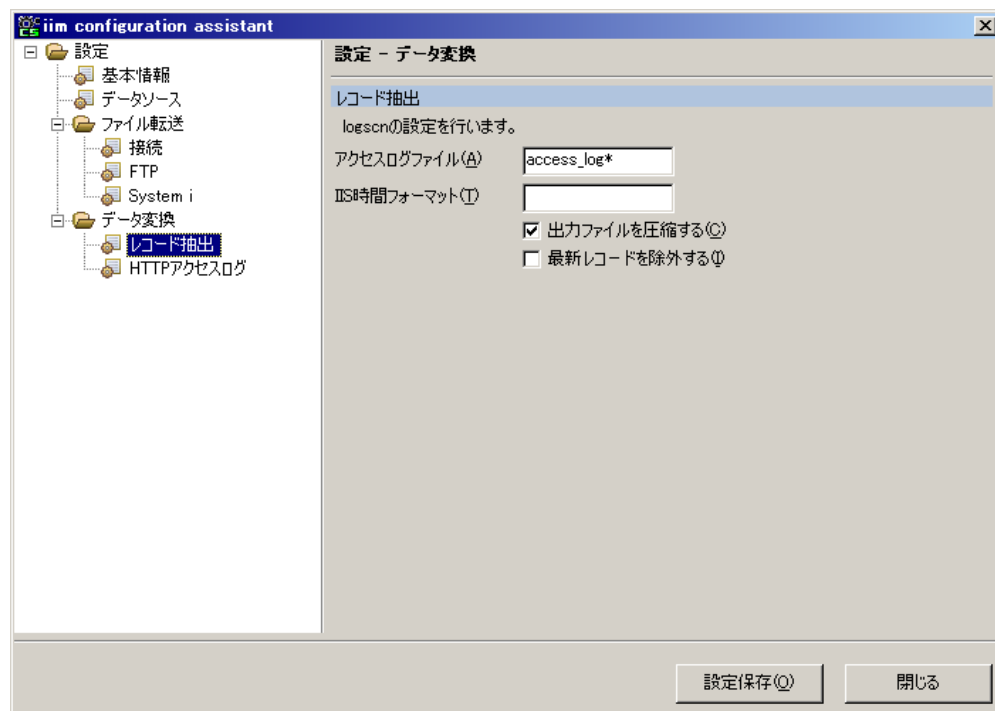
- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

3.2.4. レコード抽出

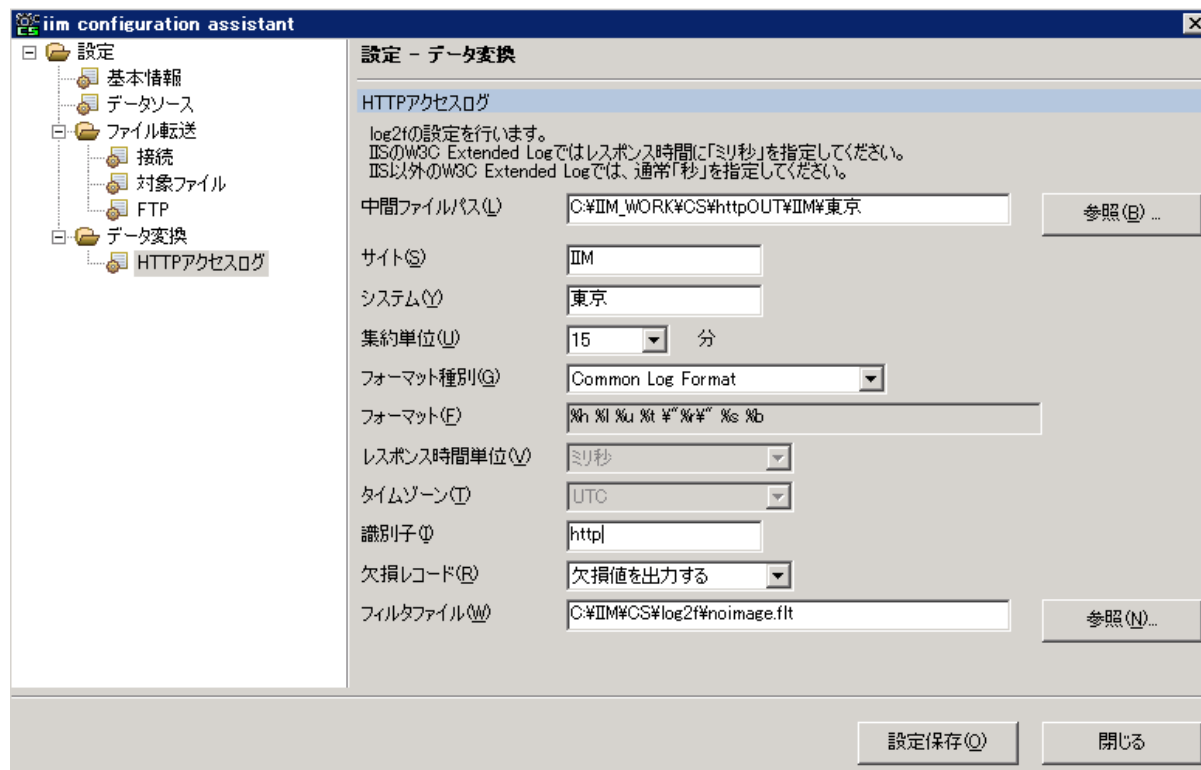
logscn の設定を行います。

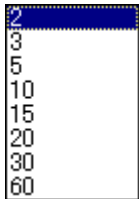



項目	説明
アクセスログファイル(A)	処理対象のアクセスログファイルを指定します。
IIS 時間フォーマット(I)	IIS ログフォーマットの場合に指定します。 出力日付の書式を、%x(年)、%m(月)、%d(日)と区切り文字を組み合わせで指定します。 例えば、日付が"2004/06/13"のように出力されている場合は、%x/%m/%d を指定します。 指定がない場合のデフォルトは「/%m/%d/%x」です。
出力ファイルを圧縮する(C)	出力するファイルを圧縮するか指定します。
最新レコードを除外する(I)	チェックした場合は、実行時における最新ログレコードのタイムスタンプの時間マイナス 1 時間迄のログレコードを抽出します。 例えば、実行時における最新のログレコードのタイムスタンプが 4 月 1 日の 10 時台であれば、4 月 1 日の 9 時台のログレコードまでを抽出します。

3.2.5. HTTP アクセスログ

CS-WEB Option HTTP Log Processor log2f の設定を行います。



項目	説明
中間ファイルパス(L)	データ変換前のファイルのパスを入力します。 パスは通常「3.1.1. 接続」の「ローカルパス(L)」で指定したパスと一致させます（iim collect の転送先が変換プログラムの入力元になります）。
サイト(S)	サイトを入力します。 通常は変更しません。
システム(Y)	システムを入力します。 通常は変更しません。
集約単位(U)	データ集約のインターバル長（分）を選択します。 
フォーマット種別(G)	フォーマット種別を選択します。 
項目	説明
フォーマット(F)	フォーマット種別が「Common Log Format」、「Combined Log Format」、「カスタマイズ」の

	<p>場合は、アクセスログのカスタマイズ形式を入力します。</p> <p>この項目はログが apache のカスタマイズされたフォーマットであり、Common Log Format/Combined Log Format と異なるフォーマットの場合に、apache におけるカスタムログを指定する文字列と同等の文字列を指定します。（下記対応表を参照）</p> <p>フラットファイル化対象ではない項目を CS シリーズで取り扱う場合は、%{iim0}i、%{iim1}i、%{iim2}i、%{iim3}i、%{iim4}i を指定してください。該当する文字列を HTTP ログレコードのそれぞれ独自フィールド 0～4 として取り扱うことができます。</p> <p>また、応答時間がミリ秒単位で出力されている場合はその部分を %{iimrespms}i と指定します。</p> <p>%t を %{書式指定文字列}t として指定している場合、log2 f が認識する書式指定子は以下のもののみです。</p> <p>%% (%文字) %t (タブ文字) %a (曜日の短い英語表現 例. Sun,Mon,...) %A (曜日の長い英語表現 例. Sunday,Monday,...) %b (月の短い英語表現 例. Jan,Feb,...) %B (月の長い英語表現 例. January,February,...) %F (yyyy-mm-dd 形式の日付 例. 2015-04-01) %T (HH:MM:SS 形式の時刻 例. 23:10:07) %Y (yyyy 形式の西暦年 例. 2015) %y (yy 形式の西暦年 例. 15) %m (mm 形式の月 例. 01,02,...,12) %d (dd 形式の日 例. 01,02,...,31) %H (HH 形式の時 例. 00,01,...,23) %M (MM 形式の分 例. 00,01,...,59) %S (SS 形式の秒 例. 00,01,...,59) %z (+hhmm または -hhmm 形式のタイムゾーン 例. +0900)</p> <p>「カスタマイズ」の場合のフォーマットの指定例を以下に記載します。</p> <p>【実行例 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●logscn での指定内容が以下の場合 /home/iim00/logscn -o /home/iim00/custom -c "%D %h %I %u %t ¥"%r¥" %s %b" /usr/local/apache2/logs/custom_log* ●log2f での「フォーマット(F)」の指定内容 %D %h %I %u %t ¥"%r¥" %s %b <p>【実行例 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●logscn での指定内容が以下の場合 "C:¥IIM¥CS¥HTTP LOG PROCESSOR¥win32¥logscn" -o "C:¥IIM¥CS¥logscn_output" -c "%h %I %u %t ¥"%r¥" %s %b %T" "C:¥IIM¥CS¥access_log¥in*.log" ●log2f での「フォーマット(F)」の指定内容 %h %I %u %t ¥"%r¥" %s %b %T <p>フォーマット種別が「IIS Log Format」の場合は、日付フィールドのフォーマットを入力します。この項目にはログの日付が"6/13/04"や"06/13/2004"のように月、日、年の順で"/"で区切られて出力されていない場合の出力日付の書式を指定します。書式は%x(年)、%m(月)、%d(日)と区切り文字の組み合わせにより指定します。</p>
--	--

	<p>例えば、日付が"2004/06/13"（年/月/日）のように出力されている場合には "%x/%m/%d"を指定します（変換時、年月日のそれぞれの出力桁数は区切り文字と合わせて適当に解釈します）。</p> <p>【実行例 3】</p> <ul style="list-style-type: none">●サーバーで以下のように指定されたログフォーマット中の%{...}iを独自フィールド 0 として扱う場合 "%h %l %u %t ¥"%r¥" %>s %b %D ¥"%{...}i¥""●log2f での「フォーマット(F)」の指定内容 "%h %l %u %t ¥"%r¥" %s %b %D ¥"%{iim0}i¥"
--	--

※フォーマット(F)にてフラットファイル抽出対象となる項目

項目	説明
%a	クライアントホスト
%h	クライアントホスト
%B	送信バイト数
%b	送信バイト数
%D	応答時間（1000 で除算を行います。アクセスログの応答時間がマイクロ秒の場合に使用します。）
%m	メソッド
%q	クエリ文字列
%r	メソッド／URL／クエリ文字列
%s	レスポンスコード
%t	アクセス時刻(分) ／アクセス時刻(秒)
%T	応答時間（1000 で乗算を行います。アクセスログの応答時間が秒の場合に使用します。）
%U	URL
%{Referer}i	リファラー
%{iim0}i	独自フィールド 0
%{iim1}i	独自フィールド 1
%{iim2}i	独自フィールド 2
%{iim3}i	独自フィールド 3
%{iim4}i	独自フィールド 4
%{iimrespms}i	応答時間（特に単位換算は行いません。アクセスログの応答時間がミリ秒の場合に使用します。）

上記項目以外をフォーマット(F)に記載した場合は、フラットファイルの抽出対象とはなりません。

項目	説明
レスポンス時間単位(V)	<p>フォーマット種別が「W3C Extended Log Format」の場合に選択します。 Web サーバが出力するレスポンス時間の単位を指定します。</p> 
タイムゾーン(I)	<p>フォーマット種別が「W3C Extended Log Format」の場合に選択します。</p>  <p>「UTC」を選択した場合は、データ変換時にログの時刻に 9 時間を足して日本時刻にします。「ローカル」を選択した場合は、ログの時刻をそのまま出力します。 Web サーバのログが UTC 時刻で出力されていれば「UTC」を、ローカル時刻で出力されていれば「ローカル」を選択してください。</p>
識別子(I)	<p>ログの出力元アプリケーションを識別するための文字列を入力します。 複数のログを抽出した結果を一つのサイト、システムのフラットファイルとする場合、後でどのアプリケーションのログデータかを識別することが可能です。</p>
欠損レコード(R)	<p>ログにレスポンス時間が記録されていない場合のレコードの扱いを選択します。キャッシュヒットのログを扱うような場合には「ゼロを出力する」を指定します。</p> 
フィルタファイル(W)	<p>詳細レコードを作成する条件を記述したフィルタファイルの名前を入力します。フィルタファイルの記述については、別紙マニュアル「CS WEB Option HTTP Log Processor 使用者の手引き 4.3. フィルタファイルの記述」を参照してください。 また、この項目を入力しなかった場合は詳細レコードを作成しません。</p>

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

3.2.6. パケットモニタ

CS-Network Packet Monitor wmonpost の基本設定（sysparam、extparam 共通）を行います。

設定 - データ変換

パケットモニタ

wmonpostの設定を行います。

サイト(S)

システム(Y)

項目	説明
サイト(S)	サイトを入力します。 通常は変更しません。
システム(Y)	システムを入力します。 通常は変更しません。

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

データソースが「IIM パケットモニタ」の場合は、「3.2.7. パケットモニタ(標準 1)」と「3.2.8. パケットモニタ(標準 2)」の設定を行ってください。

データソースが「IIM パケットモニタ(拡張)」の場合は、「3.2.9. パケットモニタ(拡張)」の設定を行ってください。

3.2.7. パケットモニタ(標準 1)

CS-Network Packet Monitor wmonpost での監視対象サーバの設定を行います。

設定 - データ変換

パケットモニタ(標準1)

wmonpostでの監視対象サーバの設定を行います。

IPアドレス	

追加(N) ... 変更(E) ... 削除(R)

ethernetアドレス	

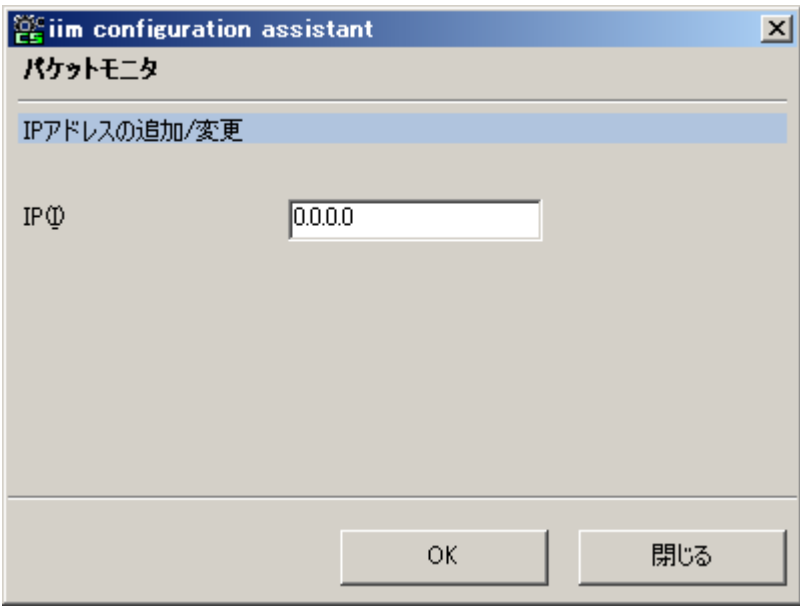
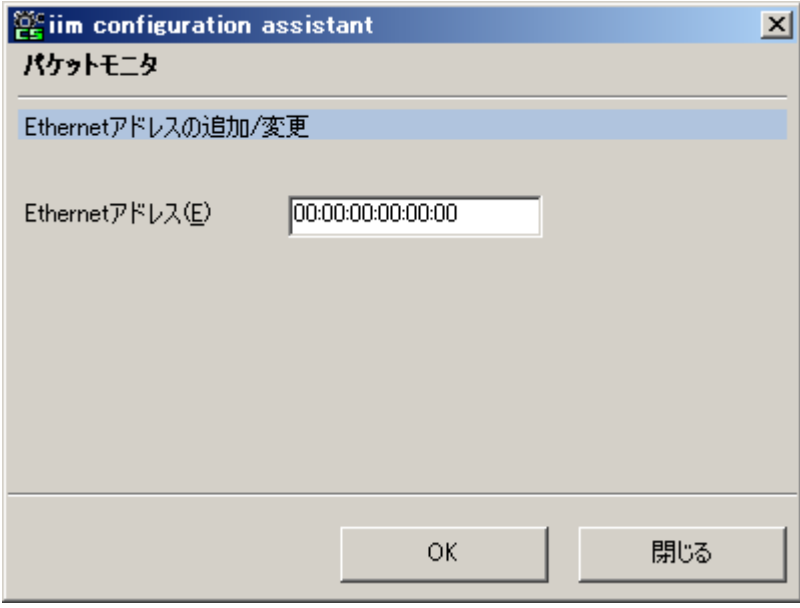
追加(B) ... 変更(Q) ... 削除(W)

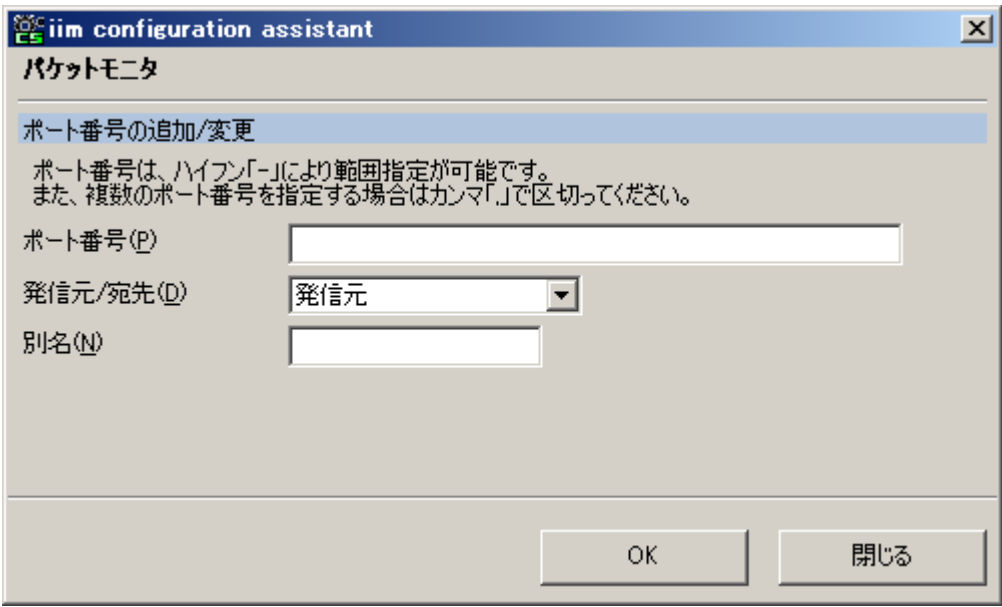
ポート番号	発信元/宛先	別名	

追加(M) ... 変更(T) ... 削除(Y)

▲ ▼

項目	説明
IP アドレス	監視対象ホストに割り当てられている IP アドレスを設定します。
ethernet アドレス	監視対象ホストの持つ ethernet アドレスの一覧を設定します。
ポート番号	個別にトレースログ解析結果を集計したいポート番号を設定します。 データ変換時に一覧の上位ほど優先されます。順番の変更は[▲][▼]ボタンで行います。

ボタン	機能
[IP アドレス]追加(N)...	<p>以下の画面にて IP アドレスを追加します。</p> 
[IP アドレス]変更(E)...	選択した IP アドレスを変更します。
[IP アドレス]削除(R)	選択した IP アドレスを削除します。
[ethernet アドレス]追加(B)...	<p>以下の画面にて ethernet アドレスを追加します。</p> 
[ethernet アドレス]変更(Q)...	選択した ethernet アドレスを変更します。
[ethernet アドレス]削除(W)	選択した ethernet アドレスを削除します。

ボタン	機能
[ポート番号]追加(M)...	<p>以下の画面にてポート番号を追加します。</p> <div></div> <p>「ポート番号(P)」は、対象とするポート番号を入力します。 ポート番号はハイフン「-」を使用して番号の範囲を指定することも可能です。 また、カンマ「,」で区切って複数のポート番号（範囲）を指定することも可能です。 「発信元/宛先(D)」では、監視対象ホスト側のポート番号を使用して集計を行う場合は「発信元」を、通信相手側のポート番号を使用して集計を行う場合は「宛先」を選択します。 「別名(N)」は、集計単位に割り当てる名称を入力します。</p>
[ポート番号]変更(T)...	ポート番号を変更します。
[ポート番号]削除(Y)	ポート番号を削除します。

注意！

ポート番号の追加で別名を指定していないポート番号が well-known または registered ポートの場合、CS-MAGIC でポート番号を扱う際に自動で各ポートに対応するサービス名に変換されます。

(例)

80 : http
2393 : ms-olap1

もし、well-known または registered ポートと同じ番号を固有のサービスで使用している場合は、ポート追加画面で別名を設定するか、または、CS シリーズのインストールフォルダにある「xservice.txt」の設定を行ってください。xservices.txt は以下の書式に従い変更が可能です。固有のサービスに対応するポート番号をファイルに反映させてください。「#」はコメントアウトとなります。

ネットワークサービス名,ポート番号

3.2.8. パケットモニタ(標準 2)

CS-Network Packet Monitor wmonpost での監視対象サーバの通信相手の設定を行います。

設定 - データ変換

パケットモニタ(標準2)

wmonpostでの監視対象サーバの通信相手の設定を行います。

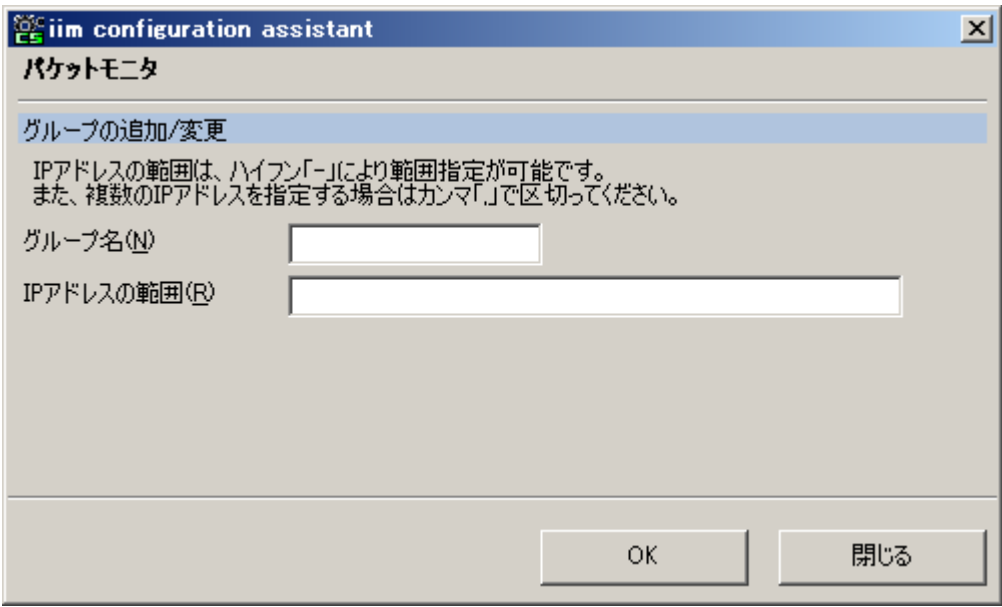
グループ名	IPアドレスの範囲

▲

▼

追加(N) ... 変更(E) ... 削除(R)

項目	説明
グループ名	トレースログを集計する際の、監視対象サーバの通信相手の IP アドレスを設定します。 データ変換時に一覧の上位ほど優先されます。順番の変更は[▲][▼]ボタンで行います。

ボタン	機能
追加(N)...	<p>以下の画面にてグループを追加します。</p>  <p>「グループ名(N)」は、IP アドレスのグループを識別する名前を入力します。</p> <p>「IPアドレスの範囲(R)」は、監視対象サーバの通信相手のIP アドレスグルーピング条件を入力します。条件には以下の2つの表現が使用可能です。</p> <p>(1)IPv4 アドレスとそれに対するマスクの組み合わせ (2)IPv4 アドレスの範囲指定</p> <p>(1)は「IPv4 アドレス+スラッシュ(/)+マスク」の形で入力してください。 (2)は「IPv4 アドレス+ハイフン(-)+IPv4 アドレス」の形で入力してください。</p> <p>IPv4 アドレスは nnn.nnn.nnn.nnn のようなピリオド(.)で区切られた4つの十進整数表現で行ってください。マスクの指定は 255.255.255.255 のようなドット(.)区切りの4つの十進整数か、0xffffffff のような0xで始まる32ビットの16進数表現で行ってください。</p> <p>(1)の場合、通信相手のIPv4 アドレスとマスクのAND結果が条件のIPv4 アドレスとマスクのAND結果と一致するかどうかをチェックします。</p> <p>(2)の場合は通信相手のIPv4 アドレスが2つのアドレスの範囲内かどうかをチェックします。また、カンマを使用して複数の表現を記述することも可能であり、その場合はどれか1つの表現に一致すれば条件を満たしているものとします。(OR 判定)</p>
変更(E)...	グループを変更します。
削除(R)	グループを削除します。

3.2.9. パケットモニタ(拡張)

CS-Network Packet Monitor wmonpost の拡張 TCP セッション情報の設定を行います。

拡張 TCP セッション情報については、別紙マニュアル「CS-Network Packet Monitor 使用者の手引き 3.5. 拡張 TCP セッション情報（Peer To Peer TCP トレースログ解析情報）」を参照してください。

項目	説明
中間ファイルパス(L)	データ変換前のファイルのパスを入力します。 パスは通常「3.1.1. 接続」の「ローカルパス(L)」で指定したパスと一致させます（iim collect の転送先が変換プログラムの入力元になります）。

3.2.10. 任意データ(全般)

CS-CONNECT etcmgx の基本的な設定を行います。

設定 - データ変換

任意データ(全般)

etcmgxの設定を行います。
 設定ファイルには変換設定を保存するファイル名を指定します。
 パスは「<CS導入フォルダ>%etcmgx%cnvrules」です。
 ファイル名は「rule9999.txt」(9999は1～32文字の数字)です。
 中間ファイルには変換対象のファイル名を指定します。
 ファイル名の指定にはワイルドカード(?.*)が使用可能です。
 また、ファイル名には必ず「<SITE>」「<SYS>」を含めてください。
 どちらも1文字以上の文字にマッチし、マッチした文字列がそれぞれサイト、システムとなります。

設定ファイル(F)

C:\IIM\CS\etcmgx\cnvrules\rule1.txt

中間ファイル(L)

C:\IIM_WORK\CS\connectOUT\<SITE>\<SYS>*

文字コード(C)

MS932

区切り文字(D)

.

集約単位(U)

15

分

囲み文字(E)

ダブルクォーテーションはない

ヘッダ行の読み飛ばし(H)

0

行読み飛ばす (0 はヘッダ行なし)

項目	説明
設定ファイル(F)	設定を保存するファイルを入力します。 システム毎にユニークなファイルを指定します。 設定ファイルは、「<CS 導入フォルダ>%etcmgx%cnvrules」フォルダ内に作成します。 ファイル名は、「rule9999.txt (9999 は 1～32 文字の数字)」とします。

項目	説明
中間ファイル(L)	<p>データ変換前のファイルのパスを入力します。 パスは通常「3.1.1. 接続」の「ローカルパス(L)」で指定したパスと一致させます（iim collect の転送先が変換プログラムの入力元になります）。</p> <p>ワイルドカードとして '?' と '*' が指定可能であり、それぞれ、任意の 1 文字、0 文字以上の任意の文字にマッチします。</p> <p>また、「中間ファイル(L)」には、<SITE> と <SYS> という文字列を指定してください。どちらも 1 文字以上の任意の文字列にマッチし、マッチした文字列がそれぞれ、ES/1 NEO CS シリーズにおけるサイト名、システム名となります。</p> <p>(例) 変換対象ファイルの存在するパスが、 「C:¥IIM_WORK¥CS¥connectOUT¥東京¥本番サーバ¥data.log」で、 サイト名が「東京」、システム名が「本番サーバ」の場合、 「C:¥IIM_WORK¥CS¥connectOUT¥<SITE>¥<SYS>¥*.log」 と指定します。</p> <p>また、パスが「C:¥Data¥東京_本番サーバ.log」、サイト名が「東京」、システム名が「本番サーバ」の場合は、 「C:¥Data¥<SITE>_<SYS>.log」 と指定します。</p> <p>なお、変換対象ファイルのサイト名とシステム名の区切りに使用する文字（上記の例ではアンダースコア '_'）を、サイト名、システム名に使用しないでください。サイト名とシステム名が意図した通りに認識されない場合があります。</p>

サイト名、システム名については下記の注意を参照してください。

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

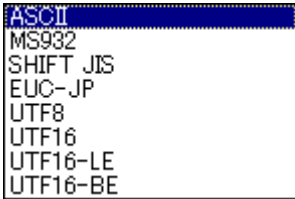
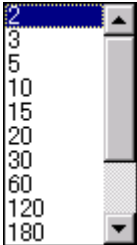
サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例


- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

項目	説明
文字コード(C)	<p>変換対象ファイルの文字コードを選択します。</p>  <p>選択肢の文字コードはそれぞれ以下の通りです。</p> <p>ASCII : マルチバイト文字が含まれていない MS932 : Microsoft Windows 漢字コード SHIFT JIS : Shift JIS EUC-JP : EUC-JP UTF8 : UTF-8 UTF16 : バイトオーダーマークの有る UTF-16 UTF16-LE : バイトオーダーマークの無い UTF-16-LE UTF16-BE : バイトオーダーマークの無い UTF-16-BE</p>
区切り文字(D)	<p>変換対象ファイルのフィールド区切り文字を入力します。</p> <p>タブを区切り文字とする場合は「<code><tab></code>」を入力します。</p> <p>また、「/」と「:」、および半角数字は区切り文字として使用できません。</p>
集約単位(U)	<p>データ集約のインターバル長（分）を選択します。</p>  <p>データの時刻はここでの指定値で丸められます。</p> <p>(例)</p> <p>入力ファイル（データ）が以下の様な場合、 2005/01/01, 09:00 ,30.1,7,80,1.0,1.0 2005/01/01, 09:15 ,0.1,0.1,0,0,1.0 2005/01/01, 09:30 ,2.5,7.5,3,0,0 2005/01/01, 09:45 ,10,22,43,1.1,1.7</p> <p>「30」を選択し変換を実行すると、 7400, 0900 ,,1800,30.1,7,80,1.0,1.0 7400, 0900 ,,1800,0.1,0.1,0,0,1.0 7400, 0930 ,,1800,2.5,7.5,3,0,0 7400, 0930 ,,1800,10,22,43,1.1,1.7</p> <p>というように集約単位（30 分）と合わないレコードの時刻が付け替えられます。</p>

設定が終了したら、続いて「3.2.11. 任意データ(テーブル)」の設定を行ってください。

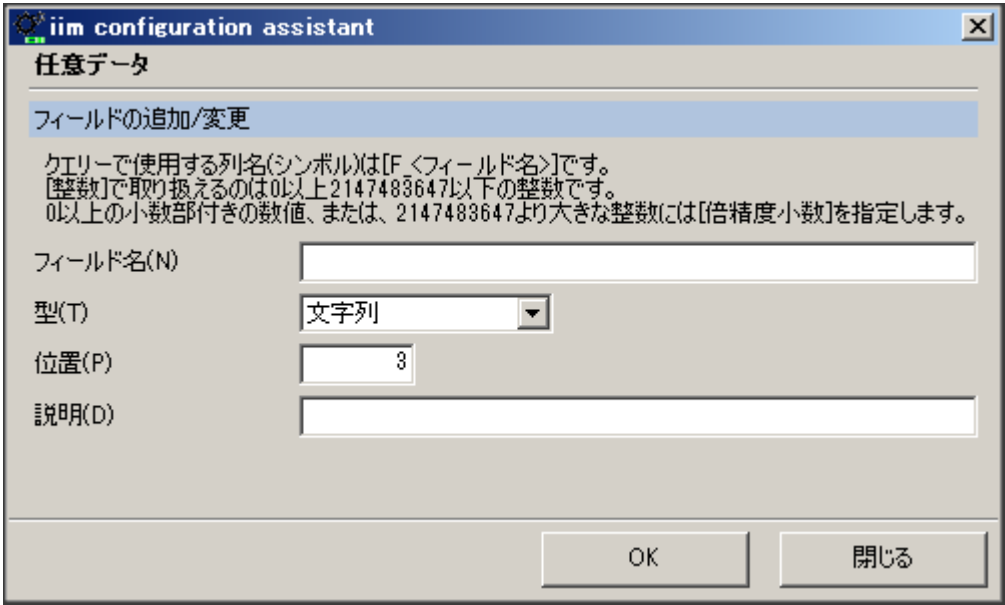
項目	説明
囲み文字(E)	<p>変換対象ファイルの囲み文字を指定します。</p>  <p>値が"300,100"のようにダブルクォーテーションで囲まれる場合は「ダブルクォーテーションを除く。」のエスケープなし」を指定します。</p> <p>値中の連続するダブルクォーテーションを単一のダブルクォーテーションとみなす場合は「ダブルクォーテーションを除く。」のエスケープあり(例"")」を指定します。</p>
ヘッダ行の読み飛ばし(H)	<p>変換対象ファイルの読み飛ばす行数を入力します。</p> <p>例えば、10 を指定すると 1 行目から 10 行目までは読み飛ばします。</p>

3.2.11. 任意データ(テーブル)

CS-CONNECT etcmgx のテーブル情報の設定を行います。

[illegible]

項目	説明
テーブル名(<u>T</u>)	<p>テーブル名を入力します。</p> <p>任意の半角英数「A-Za-z0-9」、およびアンダースコア「_」で指定します。</p> <p>なお、英大文字と小文字は区別されず、英小文字は英大文字として扱われます。</p> <p>テーブル名は ES/1 NEO CS シリーズのクエリーの表名「USR_<テーブル名>」として使用されます。</p>
テーブルの説明(<u>D</u>)	<p>テーブルの説明を入力します。</p> <p>半角カンマ「,」と半角シングルクォート「'」は使用できません。</p> <p>テーブルの説明は ES/1 NEO CS シリーズのクエリー定義 GUI での表示に使用されます。</p>
フィールド名	<p>フィールドを設定します。</p> <p>順番の変更は[▲][▼]ボタンで行います。</p> <p>フィールド数の上限は 60 です。</p>

ボタン	機能
追加(N)...	<p>以下の画面にてフィールドを追加します。</p>  <p>「フィールド名(N)」は、任意の半角英数「A-Za-z0-9」、およびアンダースコア「_」で指定します。ただし、先頭文字で使用できるのは半角英字「A-Za-z」のみです。なお、英大文字と小文字は区別されず、英小文字は英大文字として扱われます。</p> <p>フィールド名は ES/1 NEO CS シリーズのクエリーの列名「F_<フィールド名>」として使用されます。</p> <p>「型(I)」は以下のいずれかを選択します。</p> <p>文字列 : 文字列</p> <p>整数 : 0 以上 2147483647 以下の整数</p> <p>倍精度小数 : 0 以上の小数部付きの数値、または、2147483647 より大きな整数</p> <p>「位置(P)」は、変換対象ファイルのフィールドの位置を入力します（フィールドの位置は最も左側のフィールドを 1 として数え、第 1, 2 フィールドは固定なため、実際には 3 から定義します）。</p> <p>「説明(D)」は、フィールドの説明を入力します。半角カンマ「,」と半角シングルクォート「'」は使用できません。</p>
変更(E)...	フィールドを変更します。
削除(R)	フィールドを削除します。

3.2.12. Zabbix ※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。

rmonmgx の設定を行います。

設定 - データ変換

Zabbix

rmonmgxの設定を行います。

サイト(S)

IIIM

システム(Y)

東京

URL(R)

http://

ユーザ(U)

パスワード(P)

集約単位(N)

15

分

項目	説明
サイト(S)	サイトを入力します。 通常は変更しません。
システム(Y)	システムを入力します。 通常は変更しません。
URL(R)	Zabbix サーバの URL。
ユーザ(U)	Zabbix サーバにアクセスするユーザ。
パスワード(P)	Zabbix サーバにアクセスするユーザのパスワード。
集約単位(N)	データ集約のインターバル長（分）を選択します。 <div> <div>2</div> <div>3</div> <div>5</div> <div>10</div> <div>15</div> <div>20</div> <div>30</div> <div>60</div> </div>

注意！

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; * ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名